

実務家教員担当授業科目(2023年度)

教養科目(3学科共通科目)

【専任教員】

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
<p>こころと行動</p> <p>1年前期</p>	<p>人間の行動の背景には様々なこころの動きがある。モノがあふれる現代、人々の関心は内面へと向い心理学に対する関心もますます高まっている。本講義では、日常的なトピックスからこころの深層の世界までさまざまな題材を取り上げながら、心理学についての理解を深める。</p> <p>1. オリエンテーション 心理学とは? 2. 感情・情動 3. 感覚・知覚 4. 記憶の心理学 5. 学習心理学 6. こころの発達(1) 7. こころの発達(2) 8. 対人認知と印象形成 9. 集団と組織の理解 10. 欲求・動機づけ 11. パーソナリティ・性格 12. 知能と創造性 13. ストレスと適応 14. 心理学的支援と心理臨床 15. まとめ</p>	高田晃治	2
<p>人間関係論</p> <p>2年後期</p>	<p>人間関係は我々の生活の基本であり、人間が人間として生きていくために不可欠な要素である。本講義では、日常生活で経験する様々な人間関係を取り上げながら、これまでの研究による知見を紹介し、心理学的観点からその意味を検討していく。</p> <p>1. オリエンテーション：人間関係論とは? 2. 自己と他者 3. 人間関係の発達(1)：乳児期 4. 人間関係の発達(2)：幼児期～学童期 5. 人間関係の発達(3)：青年期・成人期・高齢期 6. 恋愛関係の心理学 7. 家族関係の心理学(1) 8. 家族関係の心理学(2) 9. 地域社会とコミュニティ(1) 10. 地域社会とコミュニティ(2) 11. 地域社会とコミュニティ(3) 12. 集団力学 13. 組織の心理学 14. 仕事とストレルマネジメント 15. 「さよなら」の心理学</p>	高田晃治	2
<p>文章表現とコミュニケーション</p> <p>1年後期</p>	<p>この授業は、文章の書き方をテーマに、書く技術を身につけるための授業である。学校ではレポートを、職場ではビジネス文書を書く機会が多いが、さまざまな文書表現の基本から応用まで、実際に書くことを通して学んでいく。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 文章表現の基本1 3. 文章表現の基本2 4. 文章表現の基本3 5. 文章表現の基本4 6. 書くための知識1 7. 書くための知識2 8. 書くための知識3 9. 書くための知識4 10. 書くための技術1 11. 書くための技術2 12. 書くための技術3 13. 文章の書き方まとめ1 14. 文章の書き方まとめ2 15. 総まとめ</p>	金岡敬子	2
<p>日本事情 I</p> <p>1年後期</p>	<p>本学に入学した外国人留学生のための授業である。本学における専門的な授業の理解や単位の取得を効果的に進めるためには、日本語をマスターするだけでなく、日本の生活環境・習慣の違いを理解することが重要である。この授業は伝統文化から現代社会および、人間生活に関わる基本的な知識を修得する。</p> <p>1. 授業ガイダンス 2. 心構え 3. 異文化間コミュニケーション1 4. 異文化間コミュニケーション2 5. こころのケア1 6. こころのケア2 7. 日本の医療事情 8. 日本の病院 9. 日本のIT事情 10. 日本の伝統工芸 11. 日本の伝統文化 12. 日本の伝統食 13. 日本人の食生活1 14. 日本人の食生活2 15. まとめ</p>	金岡敬子	1
<p>医学英語 II</p> <p>2年後期</p>	<p>臨床検査で用いられる試薬や機器の説明書は英語表記のことが多い。また、臨床検査分野で学術活動をする場合、国内のみならず国外の英語文献を読まなければならないことも多い。臨床検査分野のそれぞれの専門家による医学英語の読み方の基礎を学ぶ。</p> <p>1. 病理学に関する領域 2. 病理学に関する領域 3. 病理学に関する領域 4. 微生物学に関する領域 5. 微生物学に関する領域 6. 微生物学に関する領域 7. 血液学に関する領域 8. 血液学に関する領域 9. 血液学に関する領域 10. 生理学に関する領域 11. 生理学に関する領域 12. 生理学に関する領域 13. 生化学に関する領域 14. 生化学に関する領域 15. 生化学に関する領域</p>	尾田 三世	1
<p>理数応用</p> <p>1年前期</p>	<p>基礎分野である「物理学、化学、生物学、統計学」を理解するために、高等学校教育までの内容で、医療系職種に必要な基礎知識を学ぶ。</p> <p>1. 四則演算・平方根 2. 関数と方程式 3. 指数 4. 対数 5. 最小二乗法と検量線 6. 統計 7. 統計演習 8. まとめのテスト 9. 化学1 10. 化学2 11. 化学3 12. 化学4 13. 化学5 14. 化学6 15. 化学まとめ</p>	岡村美和	2

【非常勤教員】

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
母と子の健康 1年前期	<p>一人の女性として、自分の身体の構造を知り、ライフステージ各期の身体の変化と起こりうるさまざまな疾患について学ぶ。また社会問題である性感染症について知り、正しい予防法と避妊法の知識を深めてもらう。 妊産婦・新生児から小児までの健康・疾患を知り、母子を取り巻く環境について学ぶ。</p> <p>1. OR・母子保健 2. 女性の生理的特徴1 3. 女性の生理的特徴2 4. 女性のライフステージと関連疾患1 5. 女性のライフステージと関連疾患2 6. 女性のライフステージと関連疾患3 7. 女性のライフステージと関連疾患4 8. 女性の関連疾患5 妊産婦の健康上の問題1 9. 妊産婦の健康上の問題2 10. 妊産婦の健康上の問題3 11. 妊産婦の健康上の問題4 12. 妊産婦の健康上の問題5 13. 小児の成長と発達 14. 小児の疾患・事故 15. 妊産婦の健康上の問題6</p>	井上富美江	2
デスエデュケーション論(生命倫理)	<p>医療の進歩に伴い、生命をめぐる倫理的課題が山積している。 本授業では、生命に携わる医療職者として基盤となる考え方を理解するとともに、自己の在りようを考察する。さらに、倫理的問題に対応するための基本となる知識・技術・態度を習得するために、事例やワークを通して学びを深める。</p> <p>1. ガイダンス/生と死を考える 2. 倫理原則とは 3. ホスピス/緩和ケア 4. 死にゆく人の心理 5. 臨床における倫理1 6. 事例から生命を考える1 7. 臨死期・看取り 8. 生殖医療から生命を考える 9. 事例から生命を考える2 10. 生命をめぐる倫理的課題1 11. 生命をめぐる倫理的課題2 12. 臨床における倫理2 13. 臓器移植から生命を考える1 14. 臓器移植から生命を考える2 15. 学習内容から生命を考える/まとめ</p>	山根民子	2

教養科目(3学科共通) 14

人間生活学科

【専任教員】

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位
発達心理学Ⅰ(心) 1年前期	人間はこの世に生を受け、死に至るまでの生涯にわたって成長し続ける。発達心理学とは、人間の一生に及ぶ発達の過程をさまざまな側面から捉え、検証する学問である。本講義では特に人間の発生から青年期までの発達過程を中心にその特徴について学ぶ。 1. 発達心理学とは？ 2. 発達段階と発達課題 3. 遺伝と環境 4. 発達過程1：受精から誕生まで 5. 発達過程2：乳児期の発達 6. 発達過程3：幼児期の発達 7. 発達過程4：学童期の発達 8. 発達過程5：思春期・青年期の発達 9. 情動の発達 10. 認知・思考の発達 11. 子どもと遊び 12. 子どもの描画 13. 子どものファンタジー 14. 子どもの対人関係 15. まとめ	高田晃治	2
発達心理学Ⅱ(心) 1年後期	人間はこの世に生を受け、死に至るまでの生涯にわたって成長し続ける。発達心理学とは、人間の一生に及ぶ発達の過程をさまざまな側面から捉え、検証する学問である。本講義では特に青年期から老年期までの発達と、発達臨床と支援を中心に学修する。 1. オリエンテーション：生涯発達心理学とは？ 2. 社会・文化の中での発達 3. ライフサイクル 4. 青年期とアイデンティティ 5. 成人前期の発達1 6. 成人前期の発達2 7. 中年期の発達 8. 高齢期の発達1：発達課題と特徴 9. 高齢期の発達2：身体、認知、記憶 10. 高齢期の発達3：情動、動機づけ 11. 高齢期の精神障害 12. 高齢者への介護について 13. 発達障害児の理解と支援 14. 児童虐待 15. まとめ	高田晃治	2
社会心理学(心) 1年後期	人間は社会的動物であり、社会や集団のさまざまなあり様に影響されながら生きている。人間が社会の中でどのように行動し、どのように思考するのか、集団において個人の認知や行動がどのように変わりうるのかを、実証的に解明しようとする学問領域が社会心理学である。本講義では、個人と社会・集団との相互作用について、日常の出来事や社会で起きている様々な事象を取り上げながら解説していく。 1. オリエンテーション：社会心理学とは？ 2. 「自己」について 3. 対人認知 4. 偏見とステレオタイプ 5. 命令と強制 6. 援助行動と攻撃行動 7. 集団が及ぼす影響 8. 群衆心理 9. 情報化社会とメディア、マスコミュニケーション 10. 流行と消費者行動 11. 説得と態度変容 12. 宗教・信仰とカルト問題 13. コミュニティとソーシャルサポート 14. 犯罪と防犯 15. ジェンダーの心理学	高田晃治	2
基礎心理学特講Ⅰ(心) 1年後期	本授業では、学習心理学、社会心理学、認知心理学、知覚心理学、生理心理学、感情心理学といった、いわゆる「基礎心理学」に関する諸領域について基本的な事柄を学ぶ。なお、本授業は文部科学省後援検定試験「こころ検定4級」の内容に準じて講義する。 1. オリエンテーション 2. 学習心理学1 3. 学習心理学2 4. 認知心理学1 5. 認知心理学2 6. 生理心理学1 7. 生理心理学2 8. 知覚心理学1 9. 知覚心理学2 10. 社会心理学1 11. 社会心理学2 12. 感情心理学1 13. 感情心理学2 14. 知能1 15. 知能2	高田晃治	2
基礎心理学特講Ⅱ(心) 2年前期	本授業では、「基礎心理学特講Ⅰ」に引き続き、基礎心理学の諸領域のうち、発達心理学、パーソナリティ心理学、教育心理学、適応心理学、心理検査学について基本的な事柄を学ぶ。なお、本授業は文部科学省後援検定試験「こころ検定3級」の内容に準じて講義する。 1. 発達心理学1 2. 発達心理学2 3. 発達心理学3 4. パーソナリティ心理学1 5. パーソナリティ心理学2 6. パーソナリティ心理学3 7. 教育心理学1 8. 教育心理学2 9. 教育心理学3 10. ストレスと適応1 11. ストレスと適応2 12. ストレスと適応3 13. 心理検査学1 14. 心理検査学2 15. 心理検査学3	高田晃治	2

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位
子どもの福祉と子育て支援 2年前期	<p>今や超少子化国といわれる日本。マスコミでも子育て支援や少子化対策を求める声が盛んである。この授業では、現代の子ども及び子育てをする親、さらに地域社会を取り巻く諸問題を検討し、子どもの健康な発達と福祉のありようを考えていきたい。</p> <p>1. 児童福祉の理念 2. 現代の子どもを取り巻く環境 3. 子どもの発達過程 4. 家庭と子ども 5. 地域社会と子ども 6. 子どもの権利 7. 子どもの福祉に関する法制度 8. 子どもの福祉に関する機関・施設と専門職 9. 子どもの福祉に関するサービスの実際 10. 子育て支援サービスの展開 11. 民間サービスの意義と現状 12. 困難を抱えた子どもと家庭への支援 13. 児童虐待の防止とケア 14. 子どもの福祉をめぐる動向と展望 15. 子育て支援の実際</p>	高田晃治	2
臨床心理学 2年後期	<p>臨床心理学は何よりも実践的な心理学である。心理臨床の現場は人と人との出会いの中にあり、関係性の中で経験が積み重ねられ、新たな発見が生まれ続ける。本講義では臨床心理学の諸理論および心理臨床の実践を紹介すると共に、人間を理解すること、困難を抱えながらも自分らしく生きていくこと、人格の成長と成熟といったことについても考えていきたい。</p> <p>1. オリエンテーション：臨床心理学とは？ 2. 臨床心理学の理論1：精神分析学 3. 臨床心理学の理論2：分析心理学 4. 臨床心理学の理論3：認知行動療法 5. 臨床心理学の理論4：人間中心アプローチ 6. 臨床心理学の理論5：様々な心理療法 7. 臨床心理アセスメント 8. 子どもの心の問題 9. 思春期・青年期の心の問題 10. 臨床心理学的理解と支援1：発達障害 11. 臨床心理学的理解と支援2：神経症 12. 臨床心理学的理解と支援3：パーソナリティ障害 13. 臨床心理学的理解と支援4：精神障害 14. 臨床心理学的理解と支援5：「うつ」について 15. 臨床心理学的理解と支援6：高次脳機能障害</p>	高田晃治	2
カウンセリング(心) 2年後期	<p>学生生活を送る中で、人間関係や進路、学業などで、さまざまな問題や悩みが生じるのは誰にでもあり得ることである。この授業では、カウンセリングの基本的な考え方や技法を学習することを通じて、上記のような問題が生じたときに仲間同士で支え合い、問題解決を目指すピアヘルピングの技術を習得することを目指す。また、ピアヘルパーとしての役割や倫理、限界などについても学ぶ。</p> <p>1. 導入 2. カウンセリングの定義・略史・種類 3. ピアヘルピングの関係領域 4. ピアヘルピングのプロセス 5. ピアヘルパーのパーソナリティ 6. ピアヘルピングの言語的技法1 7. ピアヘルピングの言語的技法2 8. ピアヘルピングの非言語的技法 9. 諸問題への対処法 10. ピアヘルパーの心がまえ 11. ヘルピングスキルの上達法 12. ピアヘルパーの倫理 13. ピアヘルパーの活動領域1：学業・進路 14. ピアヘルパーの活動領域2：友人・グループ 15. ピアヘルパーの活動領域3：関係修復・心理</p>	高田晃治	2
心理学実験・査定実習(心) 2年後期	<p>心理学はその歴史の中で、人間の心のはたらきを科学的・実証的に解明することを目指して研究が積み重ねられてきた。本授業では心理学に関する基礎的な実験や調査、心理検査を体験的に学び、人の心を実証的に理解する視点を養う。また、心理学研究のレポートの書き方を学ぶことを通じて、事実を簡潔かつ正確に文章化する力、エビデンスに基づいて論理的に考える力を培う。</p> <p>1. オリエンテーション：心理学実験と心理査定 2. 心理学研究法とレポートの書き方 3. 心理学実験1 4. 心理学実験2 5. 心理学実験3 6. 心理調査法1 7. 心理調査法2 8. 心理調査法3 9. 心理査定(質問紙法1) 10. 心理査定(質問紙法2) 11. 心理査定(質問紙法3) 12. 心理査定(投映法1) 13. 心理査定(投映法2) 14. 心理査定(投映法3) 15. まとめ</p>	高田晃治	1
人間心理特論 I 2年前期	<p>本授業では、心理学研究を進めるにあたって必要な基礎知識や手続きを学ぶ。また、文献を検索して読解すること、実験や調査を実施すること、データを分析すること、レポートを執筆して説明することなどを体験的に学習する。そして、各自が自分が深く知りたい、調べたいテーマを考え、後期からの人間心理特論 II に向けて準備をしていく。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 心理学の研究法 3. テーマの設定 4. 文献検索 5. 心理学文献の読み方 6. 研究の進め方 7. 質問紙による研究1 8. 質問紙による研究2 9. 観察・面接による研究 10. 文献研究 11. 実験による研究 12. データの分析 13. 心理学レポートの書き方 14. 心理学研究の倫理 15. 心理学研究に向けて</p>	高田晃治	1

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位
特別研究 2年前期・後期	<p>特別研究は、研究論文あるいは研究制作のどちらかとし、原則として人間生活学科専任教員の指導のもとに行い、個人研究、共同研究のどちらでもよいこととする。また、研究テーマは、指導教員と相談のうえで決定し、適宜に指導教員の指示を受けながら、研究を進めていく。 特別研究は、2年間の勉学の総仕上げである。学生の意欲的な取組みを期待したい。</p> <p>1. 特別研究について 2. 研究テーマの決定 3. 研究テーマの決定 4. 研究論文、研究制作の進行 5. 研究論文、研究制作の進行 6. 研究論文、研究制作の進行 7. 研究論文、研究制作の進行 8. 研究論文、研究制作の進行 9. 研究論文、研究制作の進行 10. 研究論文、研究制作の進行 11. 研究論文、研究制作の進行 12. 研究論文、研究制作の進行 13. 研究論文、研究制作の進行 14. 研究論文、研究制作の進行 15. 研究論文、研究制作の進行</p>	高田晃治	4
人間心理特論Ⅱ 2年後期	<p>本授業では、前期の「人間心理特論Ⅰ」に引き続き、心理学研究を進めるにあたって必要な基礎知識や手続きを学ぶ。本授業では各自研究テーマを具体的に決定し、先行研究を調べ、実際に調査し、得られた結果について考察し、発表資料を作成し、最終的に特論発表会の場でプレゼンテーションを行うまでの、心理学研究のプロセスを体験的に学習する。</p> <p>1. 研究計画の発表1 2. 研究計画の発表) 3. 調査・研究にあたっての諸注意1 4. 調査・研究にあたっての諸注意2 5. 研究グループの決定 6. 研究テーマの具体化1 7. 研究テーマの具体化2 8. 質問紙の作成1 9. 質問紙の作成2 10. データの収集 11. 分析と解釈1 12. 分析と解釈2 13. 研究抄録の作成1 14. 研究抄録の作成2 15. プレゼンテーション</p>	高田晃治	1
秘書実務総論 1年前期	<p>秘書の職能と資質について学ぶことで、社会人として必要なビジネスの基本となる考え方やマナーを理解し、一社会人としての心構えや求められる人柄、身だしなみ等について学ぶ。秘書に求められる基本的な能力の理解をする。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 秘書学習の目的 3. 秘書教育の意義 4. 秘書の資質と仕事 5. 組織における秘書機能 6. 上司と秘書の関係 7. 秘書に求められる基本能力 8. 職場における人間関係 9. 秘書業務の実際1 10. 秘書業務の実際2 11. 秘書業務の実際3 12. 情報化社会の秘書の役割 13. 秘書の事例研究1 14. 秘書の事例研究2 15. まとめ</p>	金岡敬子	2
文章表現とコミュニケーションⅠ 1年前期	<p>この授業は、「文書表現とコミュニケーションⅠ・Ⅱ」を続けて受講することで、文章の書き方をテーマに、書く技術を身につけるための授業である。学校ではレポートを、職場ではビジネス文書を書く機会が多いが、さまざまな文書表現の基本から応用まで、実際に書くことを通して学んでいく。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 文章表現の基本1 3. 文章表現の基本2 4. 文章表現の基本3 5. 文章表現の基本4 6. 書くための知識1 7. 書くための知識2 8. 書くための知識3 9. 書くための知識4 10. 書くための技術1 11. 書くための技術2 12. 書くための技術3 13. 文章の書き方まとめ1 14. 文章の書き方まとめ2 15. 総まとめ</p>	金岡敬子	2
マナーと身だしなみ演習Ⅰ 1年前期	<p>この授業は、さまざまな状況の下で必要となるマナーと身だしなみについて、一から実践しながら学びます。実践演習をすることで、基本的な言葉遣いや立ち居振る舞いのマナーから表現の仕方を学び、状況に合わせた身だしなみを身に付けることが目的です。社会に出て必要なマナーを知らないで恥をかかないように、そして職場では女性として輝いて働いていくために必要な動作を毎回実践していきます。</p> <p>1. ビジネスマナーの意味と役割1 2. ビジネスマナーの意味と役割2 3. 立ち居振る舞いの基本1 4. 立ち居振る舞いの基本2 5. 職場のルールとマナー1 6. 職場のルールとマナー2 7. 職場のルールとマナー3 8. 言葉遣いのマナー1 9. 言葉遣いのマナー2 10. 言葉遣いのマナー3 11. 来客応対マナー1 12. 来客応対マナー2 13. 訪問のマナー 14. 総合演習1 15. 総合演習2 まとめ</p>	金岡敬子	2

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位
医療コミュニケーション 1年後期	<p>医療機関では総合的な患者サービスを重要視する方向に進んでいる。患者サービスによって病院全体の評価が大きく左右されることからメディカルスタッフにも、専門的な能力プラス患者接遇マナーが求められている。医療に携わる者として必要な窓口業務の接遇マナーの基礎から応用まで理解し、インターンシップにも活用できるように学習する。</p> <p>1. 患者接遇の基本 2. 患者接遇の基本 3. 患者接遇の基本 4. 患者接遇の基本 5. 仕事の基本 6. 仕事の基本 7. 患者受付の実際 8. 患者受付の実際 コミュニケーション 9. 患者接遇の実技 10. 患者接遇の実技 11. 患者接遇の実技 12. 患者接遇の実技 13. 患者接遇の実技 14. 患者接遇の実技 15. 患者接遇の実技まとめ</p>	金岡敬子	2
ビジネス実務総論 1年後期	<p>ビジネス現場で職業人として業務を遂行する上で理解して活用するには何が求められるのか、ビジネス実務の意義や内容など現場の基礎知識について学びます。具体的には、私たちを取り巻く社会環境を知り、そこで必要な業務マネジメント、個人業務および協働業務を実践するために求められる資質やスキルの基本知識を学び、自分のキャリアに繋げます。</p> <p>1. オリエンテーション ビジネスの定義 2. ビジネス実務学習の意義 3. キャリア形成の方向性を考える 4. 働き方の基本1 5. 働き方の基本2 6. 働き方の基本3 7. ビジネス実務の基礎知識1 8. ビジネス実務の基礎知識2 9. ビジネス実務の基礎知識3 10. ビジネス実務の基礎知識4 11. ビジネス実務の基礎知識5 12. ビジネス実務の基礎知識6 13. 働き方の基礎知識1 14. 働き方の基礎知識2 15. まとめ・総括</p>	金岡敬子	2
文章表現とコミュニケーションⅡ 1年後期	<p>「文書表現とコミュニケーションⅠ」に引き続き、開講される授業であり、文章の書き方をテーマに、書く技術を身につけるための授業である。学校では、レポート、抄録、小論文等文章を書く機会が多くあり、卒業後職場では、日々ビジネス文書を作成する。これら必要な文書表現の基本から応用まで、実際に書くことを通して学んでいく。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 文章表現力のためのレッスン1 3. 文章表現力のためのレッスン2 4. 読解力と表現力1 5. 読解力と表現力2 6. 読解力と表現力3 7. 書く技術1 8. 書く技術2 9. 書く技術3 10. 資料作成1 11. 資料作成2 12. 資料作成3 13. 文章の書き方まとめ1 14. 文章の書き方まとめ2 15. 総まとめ</p>	金岡敬子	2
マナーと身だしなみ演習Ⅱ 1年後期	<p>この授業は、さまざまな状況下で必要となるマナーと身だしなみについて、「マナーと身だしなみ演習Ⅰ」で学んだ知識をさらに深めます。社会生活で必要な作法やルールを理解し、言葉遣いや立居振る舞いのマナーから表現方法、状況に合わせた身だしなみを身に付けることが目的です。社会に出てマナーを知らないで恥をかかないように、そして職場では女性として輝いて働いていくために必要な動作を毎回実践していきます。</p> <p>1. ビジネスマナーの意味と役割1 2. ビジネスマナーの意味と役割2 3. 立ち居振る舞いの基本1 4. 立ち居振る舞いの基本2 5. 職場のルールとマナー1 6. 職場のルールとマナー2 7. 職場のルールとマナー3 8. 言葉遣いのマナー1 9. 言葉遣いのマナー2 10. 言葉遣いのマナー3 11. 来客対応マナー1 12. 来客対応マナー2 13. 訪問のマナー 14. 総合演習1 15. 総合演習2 まとめ</p>	金岡敬子	2
インターンシップ 1年後期	<p>春季・夏季休業中にインターンシップ受け入れ企業・役所・施設等において実習を行なうが、事前及び事後研修がある。事前研修では職業人として必要なマナーを学ぶ。事後研修では、実習終了後に作成した報告書をもとに、体験報告会を行なう。実際の職場を体験し、職業観や職業意識を磨き、ビジネス業務や事務処理に関する基本的な知識を修得する。</p> <p>1. 事前研修 2. 事前研修 3. 事前研修 4. 事前研修 5. 事前研修 6. 事前研修 7. 事前研修 8. 実習 9. 実習 10. 実習 11. 実習 12. 実習 13. 実習後 14. 事後報告 15. 事後報告</p>	金岡敬子	2
秘書実務演習 2年前期	<p>「秘書実務総論」に引き続き開講される授業であり、秘書の職能と資質について学んだ知識に加え、社会人として必要なビジネスの知識とマナーを実践演習を通して理解し、活用できる能力を身につける。また、秘書業務に求められる必要な知識・技能をビジネスの現場で活用することができる。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 秘書業務 3. 秘書業務 4. 秘書業務 5. 秘書業務 6. 応対業務 7. 応対業務 8. 応対業務 9. 慶弔業務 10. 慶弔業務 11. ビジネス文書 12. ビジネス文書 13. 秘書の仕事 14. 秘書の仕事 15. まとめ</p>	金岡敬子	2

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位
インターンシップ 2年前期	「インターンシップⅠ」で春季・夏季休業中にインターンシップ受け入れ企業・役所・施設等において実習した評価となる科目である。 1. 事前指導 2. 事前指導 3. 事前指導 4. 事前指導 5. 事後指導 6. 事後指導 7. 事後指導 8. 事後指導 9. 事後指導 10. 事後指導 11. 事後指導 12. 事後指導 13. 事後指導 14. 事後指導 15. 事後指導	金岡敬子	
ビジネス特論Ⅰ 2年前期	各自が興味関心を持った出来事をテーマにして、卒業研究に必要な基礎知識を学ぶ。特に、社会の動向を理解し、その中から自らが深く調べたいテーマや問題を発見し、調査研究をしながら、基本的な研究方法を学ぶ。また、前期の内容を基に後期に開講する特論Ⅱに向けての準備を行う。 1. オリエンテーション 2. 研究の基礎1 3. 研究の基礎2 4. 研究の基礎3 5. 研究の基礎4 6. 研究の基礎5 7. 情報収集1 8. 情報収集2 9. プレゼン資料作成1 10. プレゼン資料作成2 11. 研究の基本理解1 12. 研究の基本理解2 13. 研究の基本理解3 14. 研究テーマの決定 15. まとめ	金岡敬子	1
ビジネス実務演習 2年後期	前期「ビジネス実務総論」に引き続き講座です。ビジネス現場で職業人として業務を理解し、実践するための専門的スキルを深める。演習の授業なので、単に知識習得のみならず、実践的行動を身に付けることを目指す。ビジネス系検定にチャレンジし、ビジネス実務の定着も目指す。 1. ビジネス現場理解 2. ビジネス現場理解 3. ビジネス現場理解 4. ビジネス現場理解 5. ビジネス現場理解 6. ビジネス現場理解 7. ビジネス現場理解 8. ビジネス現場理解 9. ビジネスと情報活用理解 10. ビジネスと組織活動理解 11. ビジネスと組織活動理解 12. ビジネス実務の活動理解 13. ビジネス実務の活動理解 14. ビジネス実務の活動理解 15. まとめ	金岡敬子	2
ビジネス特論Ⅱ 2年後期	本授業は、前期の特論Ⅰに引き続き各自のテーマを掘り下げて研究を進める。各自が決定した研究テーマに基づき、先行研究、調査、結果を考察して発表資料に纏める。最終的には特論発表会の場でプレゼンテーションを行う。 1. 課題の発表1 2. 課題の発表2 3. 調査・研究にあたっての諸注意1 4. 研究グループの決定 5. 研究の進行1 6. 研究の進行2 7. 研究の進行3 8. 研究の進行4 9. 研究のまとめ1 10. 研究のまとめ2 11. 研究抄録の作成1 12. 研究抄録の作成2 13. 特論発表会事前指導1 14. 特論発表会事前指導2 15. 研究発表会	金岡敬子	1
医療事務総論Ⅰ(医) 1年前期	病院で医療事務を実際に行うために必要な知識について学ぶ。医療機関の概要(日本の医療提供体制・地域医療の実態・病院管理・組織体制)、医療保障制度のしくみ(医療関係法規、保険の概略、保険システム)について学び、医療機関における医療事務の業務内容を理解する。 1. 病院医療の概要 2. 病院組織・医療スタッフ 3. 病院組織・医療スタッフ 4. 病院事務職の業務内容 5. 病院事務職の業務内容 6. 社会保障制度 医療保障制度 7. 地域医療(医療供給体制)1 8. 地域医療(医療供給体制)2 9. 地域医療(医療供給体制)3 10. 医療関連の法規定1 11. 医療関連の法規定2 12. 医療関連の法規定3 13. 医療関連の法規定4 14. 医療関連の法規定5 15. まとめ	梅本礼子	2
医療事務演習・実習(医) 1年後期	この授業は実現場・医療機関をイメージできる講義とロールプレイ、医療秘書実務実習の事前学習である。講義では、医療秘書実務士の資質や社会人として求められる医療秘書像の確認、連携する医師事務作業補助や診療情報管理の業務等、病院業務を円滑に行なうための心構えや必要な知識・医療事務の基本的業務実務を学ぶ。 1. オリエンテーション 2. 医療事務業務等の基礎1 3. 医療事務業務等の基礎2 4. 医療事務業務等の基礎3 5. 医療事務業務の理解1 模擬ワーク 6. 医療事務業務の理解2 模擬ワーク 7. 医療事務業務の理解3 模擬ワーク 8. 病院の実際(医療事務業務)を見学体感する1 9. 病院の実際(医療事務業務)を見学体感する2 10. 病院の実際(医療事務業務)を見学体感する3 11. 現場見学後に得られた必要な知識、技能の補習 12. 現場見学後に得られた必要な知識、技能の補習 13. 業務の流れを理解し、解説、評価、改善案の掲示 14. 業務の流れを理解し、解説、評価、改善案の掲示 15. 医療事務業務を理解し、到達目標を確認する	梅本礼子、古瀬奈津美	2

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位
診療情報管理論Ⅰ(医) 2年前期	<p>診療情報管理を実施するための基礎として、診療情報の重要性を理解し、診療情報を適切に取り扱い、責任ある情報管理能力を身につける。</p> <p>本講では、診療情報管理の意義と役割について系統的に学習するとともに、診療情報管理に関わる歴史や法令や諸規則を含め、診療情報の保管方法・記録方法が機能的にどのような構成やルールをとっているかについて学ぶ。</p> <p>1. 診療情報管理の意義と役割1 2. 診療情報管理の意義と役割2 3. 診療情報管理の歴史1 4. 診療情報管理の歴史2 5. 診療情報管理と法規等1 6. 診療情報管理と法規等2 7. 診療情報管理と法規等3 8. 診療情報管理と法規等4 9. 診療情報管理と法規等5 10. 診療情報管理と法規等6 11. 診療記録の記載方法1 12. 診療記録の記載方法2 13. 診療情報の記載1 14. 診療情報の記載2 15. 診療情報の記載3</p>	梅本礼子	2
がん登録Ⅱ(医) 2年前期	<p>1年次に学んだがん登録の基礎知識を基に、診療記録や退院時サマリーなどから情報を収集し、必要な情報の登録を行い、がん登録で学ぶ病期分類や標準登録様式に則り、「がん登録」システムを用いてがん登録が行えるよう情報管理を理解する。登録した症例についてプレゼン解説を行う。診療情報管理業務実務、がん登録・統計業務実務経験を活かした授業である。</p> <p>1. 診療情報管理システム操作方法 2. 症例登録1 3. 症例登録2 4. 症例登録3 5. 症例登録4 6. 症例登録5 7. 症例登録6 8. 症例登録7 9. 症例登録8 10. 症例登録9 11. 症例登録10 12. 症例登録11 13. 症例登録12 14. 症例登録13 15. 前期課題作成</p>	梅本礼子	2
医療関係特論Ⅰ 2年前期	<p>地域診療、医療体制、診療情報管理に関するテーマを選択し発表する。必要に応じて2名から3名程度のグループによる、ワークショップ形式を取り入れる。</p> <p>テーマ：社会情勢・医療機関と医療従事者の役割、診療情報の活用などについて学修する。</p> <p>診療情報管理実務、地域連携業務分析実務、がん登録統計実務、経営分析実務などの実務経験を活かした授業である。</p> <p>1. 授業ガイダンス 2. 研究の基礎1 3. 研究の基礎2 4. 研究の基礎3 5. 研究の基礎4 6. 研究の基礎5 7. 四半期まとめ 8. 情報収集1 9. 情報収集2 10. 情報収集3 11. 情報収集4 12. 上半期まとめ 13. 課題抽出 14. 課題設定 15. まとめ</p>	梅本礼子	1
医療秘書実務実習(医) 2年前期・後期	<p>この授業は講義とロールプレイ、夏季休業中に実施する医療秘書実務実習の事前学習である。</p> <p>講義では、医療秘書実務士の資質や社会人として求められる医療秘書像の確認、連携する医師事務作業補助や診療情報管理の業務等、病院業務を円滑に行なうための心構えや必要な知識・実務を学ぶ。</p> <p>1. オリエンテーション 事前ガイダンス1 2. 事前ガイダンス2 医療機関におけるキャリア形成 3. 事前ガイダンス3 病院を知ろう・病院紹介 4. 事前ガイダンス4 総合病院見学・実習研修 5. 事前ガイダンス5 総合病院見学・実習研修 6. 病院の運営・経営管理の実際1 7. 病院の運営・経営管理の実際2 8. 病院実習の目的と心構え1 病院紹介DVD視聴 9. 病院実習の目的と心構え2 10. 業務の流れを体験する1 11. 業務の流れを体験する2 12. 事例を通して業務の流れを体験する 13. 業務の流れと留意事項を体験する 14. 医療事務・秘書業務の確認・復習 15. 医療秘書実務実習に向けて(復習)</p>	梅本礼子	2
診療情報管理論Ⅱ(医) 2年後期	<p>診療情報管理に関する業務は時代と共に多様化しており、より専門的な知識が求められている。医療に貢献する診療情報管理を実践していくための基礎を学習する。さらに、診療情報管理を実践する場で容易に想起され、対応できる基礎知識を修得する。診療情報管理実務、DPC情報管理・分析実務、地域連携業務分析実務の経験を活かした授業である。</p> <p>1. 診療情報管理について 2. 診療情報管理に求められる資質 3. 診療情報管理の基本業務1 4. 診療情報管理の基本業務2 5. 個人情報保護の視点からの保管業務 6. 紙カルテ運用における診療情報管理1 7. 紙カルテ運用における診療情報管理2 8. 電子カルテ運用における診療情報管理1 9. 電子カルテ運用における診療情報管理2 10. 国際疾病分類論1 11. 国際疾病分類論2 12. 国際疾病分類の利用1 13. 国際疾病分類の利用2 14. 国際疾病分類の利用3 15. 国際疾病分類の利用4</p>	梅本礼子	2

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位
国際統計分類Ⅱ(医) 2年後期	<p>「国際統計分類演習Ⅰ」に引き続き、各章の分類体系および特徴を理解し、分類手法を学ぶ。 退院時要約や死亡診断書などにより、診療録の記載内容を把握し、統計上必要な分類コードを正確に選択できるよう、総合的に学習する。</p> <p>1. 国際統計分類Ⅱ-1 2. 国際統計分類Ⅱ-2 3. 国際統計分類Ⅱ-3 4. 国際統計分類Ⅱ-4 5. 国際統計分類Ⅱ-5 6. 国際統計分類Ⅱ-6 7. 国際統計分類Ⅱ-7 8. 国際統計分類Ⅱ-8 9. 国際統計分類Ⅱ-9 10. 国際統計分類Ⅱ-10 11. 国際統計分類Ⅱ-11 12. 国際統計分類Ⅱ-12 13. 国際統計分類Ⅱ-13 14. 国際統計分類Ⅱ-14 15. 国際統計分類Ⅱ-15</p>	梅本礼子	2
医療関係特論Ⅱ 2年後期	<p>地域診療、医療体制、診療情報管理に関するテーマを選択し発表する。必要に応じて2名から3名程度のグループによる、ワークショップ形式を取り入れる。 テーマ：社会情勢・医療機関と医療従事者の役割、診療情報の活用などについて学修する。 診療情報管理実務、地域連携業務分析実務、がん登録統計実務、経営分析実務などの実務経験を活かした授業である。</p> <p>1. 授業ガイダンス 2. 研究の基礎1 3. 研究の基礎2 4. 研究の基礎3 5. 研究の基礎4 6. 研究の基礎5 7. 四半期まとめ 8. 情報収集1 9. 情報収集2 10. 情報収集3 11. 情報収集4 12. 課題まとめ 13. 課題まとめ 14. 課題まとめ 15. まとめ</p>	梅本礼子	1
環境と健康 2年前期	<p>私たちを取り巻く自然環境・人為的環境及びその現状を理解し、それが人の健康にどのように影響しているかを理解する。また、現状の課題に対し、どのように行動していけば、持続可能な社会づくりができるのか、柔軟に対応できる能力を身に着ける。</p> <p>1. 「環境」とは 2. 地球を知る 3. 大気環境 4. 水環境 5. 身近な環境問題とその対策 6. 廃棄物処理と循環型社会づくり 7. 放射性物質の影響 8. 地球温暖化と脱炭素社会づくり 9. 地球環境問題 10. 環境保全活動 11. 最近の環境問題 12. 化学物質と生活環境 13. 食と環境 14. 環境問題に対し私たちは何をすべきか1 15. 環境問題に対し私たちは何をすべきか2</p>	有吉邦江(兼任)	
臨床検査一般(医) 1年前期	<p>現在臨床検査は、病名を決定するだけでなく治療方針の決定、予後、治療の判定、人間ドックやスクリーニングの検査など医療における役割は大きく、かつ広範囲に及んでいる。これら臨床検査の目的を理解し、医療従事者として必要な医学知識を習得する。</p> <p>1. 臨床検査とは 2. 血液データの読み方 3. 血液サンプリング時の留意点 4. 感染症と血液検査1 5. 感染症と血液検査2 6. 出血傾向と血栓1 7. 出血傾向と血栓2 8. 輸血と副作用1 9. 輸血と副作用2 10. 腎機能検査と尿検査1 11. 腎機能検査と尿検査2 12. 肝機能検査 13. 内分泌の検査 14. 感染症の検査 15. まとめ</p>	尾田三世(兼任)	2
公衆衛生学(医) 1年後期	<p>公衆衛生学は、地域社会の組織的な努力を通して、地域住民の健康の保持増進や疾病予防などを志向する。社会における現状を学習することにより、公衆衛生学の問題点を知り、その解決への視点を身につける。また、医療概論として、現代医療に至る歴史や各医療分野の特色および医療に携わる者の心得についても学修する。医学学修の基礎知識を身につけると共に社会の中での医療の関わりに対し理解を深めていく。</p> <p>1. 公衆衛生学概論 2. 保健統計 3. 疫学 4. 疾病予防と健康管理 5. 主な疾病の予防1 6. 主な疾病の予防2 7. 環境保健1 8. 環境保健2 9. 地域保健と保健行政 10. 母子保健 学校保健 11. 産業保健 12. 高齢者保健 13. 精神保健 14. 国際保健医療 15. 保健医療福祉の制度と法規</p>	椋清美(兼任)	2

【非常勤講師】

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位
臨床医学概論Ⅲ(医) 2年前期	<p>「臨床」とは「病床に臨む」こと、すなわち患者に接して実際に診察、治療を行うことを意味します。本講では、生命の維持に直接かかわる循環器・呼吸器の代表的な疾患、精神疾患、神経疾患、眼・視覚障害、耳・聴覚障害について、その特徴、診断、治療法を理解し、臨床現場に即した知識の習得を目指します。診療情報管理、診療記録・診断書作成などに役立てるよう習得します。</p> <p>1. 循環器1 2. 循環器2 3. 循環器3 4. 呼吸器1 5. 呼吸器2 6. 精神の疾患1 7. 精神の疾患2 8. 神経系の疾患1 9. 神経系の疾患2 10. 眼・視覚に関する疾患 耳・聴覚に関する疾患</p>	朝原秀昭	1
生活介護論 1年前期	<p>現代社会は少子高齢化が進み65歳以上の割合は1/4を超え、多数の問題を抱えています。その中でも医療・介護サービスを必要とする高齢者の増加や、入院期間の短縮に伴う在宅介護の必要性、介護する家族の負担がクローズアップされています。小児から高齢者まで各年代別の健康問題・生活課題と疾患や機能障害について理解し、家庭での介護に適応できるよう学びます。</p> <p>1. OR・健康と病気 2. ライフステージと健康管理1 3. ライフステージと健康管理2 4. ライフステージと健康管理3 5. ライフステージと健康管理4 6. ライフステージと健康管理5 7. 高齢化の現状と特徴1 8. 高齢化の現状と特徴2 9. 高齢者の生活課題1 10. 高齢者の生活課題2 11. 高齢者の生活課題3 12. 高齢者の介護1 13. 高齢者の介護2 14. 高齢者の介護3 15. 高齢者の生活支援と福祉</p>	井上富美江	2
臨床医学概論Ⅰ(医) 1年前期	<p>病気の原因や症状の起こるメカニズムの基礎を学び、身体の形態、運動器に関わる骨、筋肉、関節、皮膚、消化器・泌尿器系の疾病、新生物の発生組織部位・臓器、良性・悪性、原発性、続発性、転移性等新生物の概要を理解し、多彩な診断法、治療法を学ぶ。その特徴、症状、診断法、治療法の概要を学ぶ。各種診療記録の記載・適切な病歴診断名につなげる知識を修得する。臨床医学を学ぶために必要な基礎知識を修得する。</p> <p>1. 消化器系疾患1 2. 消化器系疾患2 3. 消化器系疾患3 4. 新生物各論1 5. 新生物各論2 6. 腎尿路生殖器系疾患1 7. 腎尿路生殖器系疾患2 8. 新生物各論3 9. 新生物各論4 10. 筋骨格系の疾患総論1 11. 筋骨格系の疾患各論2 12. 筋骨格系の疾患各論3 13. 皮膚および皮下組織の疾患1 14. 皮膚および皮下組織の疾患2 15. まとめ</p>	小山幹夫	2
医療統計学Ⅱ(医) 2年前期	<p>医療統計学Ⅰでは、統計処理の基礎知識を学びました。医療統計学Ⅱでは、実際に医療機関で用いられているデータ処理の実際を学び、医療に従事する者に求められる診療情報のクオリティマネジメントの考え方を身に付けることを目的とする。医療統計学Ⅰを、受講していなくても、問題なく受講できます。</p> <p>1. 医療統計手法の概要 2. 施設基準の届け出 3. 医療統計の作成練習 4. レセプト電算データの分析 5. 様式1データの分析と活用 6. 「病院情報の公表」データ作成 7. 「データ提出加算」作成実習 8. 入院外来EFファイルの分析 9. 提出データの活用実習 10. マクロ作業の仕事への活用 11. 提出データの診療プロセス分析 12. 厚労省公開データの活用実習 13. 患者満足度・職員やりがい度調査 14. 病院における報告調査 15. 回りハ病棟の実績指数とFIM</p>	清水英俊	2
手話 2年前期	<p>聴覚障害＝耳が聞こえないあるいは聞こえにくい、という事は一体どのような事なのでしょうか。聴覚障害は外見で分かる障害ではないため、その障壁(コミュニケーション障害・情報障害)の深刻さがなかなか理解されません。聴覚障害者(特にろう者)が使用する魅力ある言語＝「手話」を学ぶことで、手話で会話する楽しさを知り、全般的なコミュニケーションについて考えるきっかけを作りたい。</p> <p>1. 手話とは？(手話言語と音声言語の違い) 2. 聞こえない人との接し方/テキスト手話編～ 3. 聞こえない人達との意志疎通の方法 4. 聴覚障害者の生活(家族・子育て) 5. メッセージを伝えるという事 6. 聴覚障害者の生活(地域) 7. 聴覚障害者の生活(地域) 8. 聴覚障害者の日常生活用具 9. ろう者と手話の歴史 10. ろう者と話そう Q&A 11. 手話の地域性・国際性 12. 聴覚障害者の生活(病院・老後) 13. 手話を使ってフリーターキング 14. 手話通訳士の体験から 15. まとめ</p>	住吉美穂	2

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位
医事コンピュータ実務(医) 1年後期	<p>診療録や伝票から得られた情報から、診療報酬算定対象となる医療行為を抽出、算定の根拠と要件の確認をし、適正な医療費の請求とレセプト作成を心がけなければならない。そのためには、診療録の読解力と診療報酬点数表の解釈が重要になる。医事オペレーターには、より高度な専門知識と正確かつ、迅速な処理能力が求められる。医学・医療、薬学、医療保険制度や診療報酬点数等総合的に理解した医事オペレーターをめざす。</p> <p>1. 令和2年度診療報酬点数表の理解1 2. 令和2年度の診療報酬点数表の理解2 3. 令和3年度介護報酬改定と診療報酬との関連 4. 医事コンピュータの基本操作 5. 外来会計1 6. 外来会計2 7. 外来会計3 8. 外来会計4 9. 入院カルテ1 出来高とDPC 10. 入院カルテ2 11. 入院カルテ3 12. 入院カルテ4 13. 入院カルテ5 14. 入院カルテ6 15. まとめ</p>	武居靖昌	2
電子カルテシステム実務総論(医) 2年前期	<p>厚生労働省通知(1999年4月)により「真正性」、「見読性」、「保存性」の3基準を満たしたうえで、診療録等の電子的保存が認められたことにより、電子カルテの導入する医療機関が徐々に増えてきている。本講では、外来・入院受付での患者情報の登録から、医師事務作業補助者による診療録記載や診断書等の各医療文書作成などの代行入力・承認業務、会計までの一連の業務について、教育システムを使用して学習する。</p> <p>1. 電子カルテシステムとは・診療報酬の基礎 2. IT化の流れと診療録の電子化への道1 3. IT化の流れと診療録の電子化への道2 4. 電子カルテの定義、機能等 5. レセプト電算処理システム等 6. 医療情報について 医療情報の今後の展開 7. ソフトの操作方法 外来1 8. 外来例題1 9. 外来例題1-2 10. 外来例題2 11. 外来例題2-2 12. 入院例題1 13. 入院例題1-2 14. 入院例題2 15. 入院例題2-2</p>	武居靖昌	2
電子カルテシステム実務演習(医) 2年後期	<p>前期で習得した電子カルテシステムの基礎知識を活かして、外来・入院の事例を、受付業務から医師事務作業補助者の各種医療文書や経過記録等の代行業務・医師の承認、薬剤クラーク、会計業務、レセプト発行、診療録管理業務の一環としての診療録印刷前点検までの一連の操作方法を演習する。</p> <p>1. 医療文書・医療記録 2. 医師事務作業補助者の業務1 3. 医師事務作業補助者の業務2 4. 医師事務作業補助者の業務3 5. 外来例題1 6. 外来例題2 7. 外来例題3 8. 入院例題1 9. 入院例題1-2 10. 入院例題2 11. 入院例題2-2 12. 入院例題3 13. 入院例題3-2 14. 入院例題4 15. 入院例題4-2</p>	武居靖昌	2
カウンセリング演習(心) 2年後期	<p>この授業では、基本的なソーシャルスキルやストレスマネジメントの力を高めながら、カウンセリングやピアヘルピングの技法を体験的に学ぶことを目標としている。</p> <p>具体的には、支え合う場をつくる力、自分や他者の内的体験に関心をもつ姿勢、イメージや体験を表現する力、他者の語りを受容的に聴く力、現実的な助言やつなぎをする力等を磨き、実生活に活かしていくことをめざしている。</p> <p>1. 基礎スキル1 自己表現と他者受容 2. 基礎スキル2 ストレスマネジメント 3. 基礎スキル3 気持ちの言語化 4. 基礎スキル4 アサーション 5. 応答スキル1 リレーション・傾聴 6. 応答スキル2 受容・繰り返し 7. 応答スキル3 共感 8. 応答スキル4 質問 9. 応答スキル5 明確化 10. 応答スキル6 要約 11. 応答スキル7 支持・助言 12. 実践スキル1 リフレーミング 13. 実践スキル2 緊急支援 14. 実践スキル3 リファラー 15. 実践スキル4 構成的グループエンカウンター</p>	福田友美	2
診療報酬・情報特講 I(医) 2年前期	<p>診療報酬請求事務能力認定試験の受験対策を中心とした授業である。また、学外研修として医療機関での視察を通し、医療事務の業務内容について学ぶ。(ただし、感染状況により変更することがある。)</p> <p>1. オリエンテーション 2. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 3. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 4. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 5. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 6. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 7. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 8. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 9. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 10. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 11. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 12. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 13. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 14. 学外研修 15. 学外研修</p>	藤本理恵	2

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位
診療報酬・情報特講Ⅱ(医) 2年後期	診療報酬請求事務能力認定試験の受験対策を中心とした授業である。また、医療事務に求められるスキル等、医療機関での実務に即した内容を学習する。 1. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 2. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 3. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 4. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 5. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 6. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 7. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 8. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 9. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 10. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 11. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 12. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 13. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 14. 診療報酬請求事務能力認定試験対策 15. 医療事務実務	藤本理恵	2
医療事務総論Ⅱ(医) 1年前期	本講では、医療機関で働く事務職の実践業務について学ぶ。テキストから学習する内容だけではなく、事例に基づいた患者対応例等から、医療保険制度や関係諸法を学び、医療機関で活躍できる人物像を目指す。 1. 医療機関の事務職紹介 2. 医療保険制度1 3. 医療保険制度2 4. 医療保険制度3 5. 医療保険制度4 6. 医療保険制度5 7. 医療保険制度6 8. 医療保険制度7 9. 医療保険制度8 10. 医療保険制度9 11. 小テスト1 12. 診療報酬制度1 13. 診療報酬制度2 14. 統計業務 施設基準管理業務 15. 小テスト2	古瀬奈津美	2
医療管理各論Ⅱ(医) 2年前期	わが国の社会保障制度の中の保険制度について、基本的な医療保険及び介護保険の制度や仕組みについて理解を深める。 また、実際の指示書・意見書・診断書等の医療機関内で取扱う文書を学習することにより、医事に限らず医療機関の事務職員として理解しておくべき関連法規や公費関連制度について知識の幅を広げる。本講では、算定だけではなく診療現場でも力を発揮する事務職員になることを目指す。 1. 医療保険制度1 2. 医療保険制度2 3. 医療保険制度3 4. 医療保険制度4 5. 医療保険制度5 6. 医療保険制度6 7. 医療保険制度7 8. 医療保険制度8 9. 医療保険制度9 10. 診断群分類 11. 介護保険制度 12. 見学実習1 13. 見学実習2 14. 見学実習3 15. 見学実習4	古瀬奈津美	2
臨床医学概論Ⅱ(医) 1年後期	妊娠初期から分娩・産後、周産期の最近の話題・情報解説をする。産科および周産期の病態・婦人科系の疾病について、特徴、症状・所見、診断法、治療法の概要を学び、診療記録記載の理解を深める。また、標記の病気の原因となる細胞やホルモンなどの名称と機能を学び、正常な状態を基礎知識として学修する。疾患原因とメカニズム、検査方法や治療法について理解を深める。 1. 女性生殖器の構造・正常妊娠・胎児の発育 2. 正常分娩・産褥 新生児 3. 妊娠の異常、母子感染症 4. 分娩・産褥の異常 5. 乳房および女性生殖器疾患・新生物 6. 血液成分の基礎 白血球・赤血球の病気 7. 血小板・血液凝固の病気 8. 免疫機能の基礎 免疫の病気 9. 内分泌の基礎 内分泌の病気 10. 内分泌の病気 2 栄養と代謝の病気	松古富美子、山崎尚也	1
DPC/ PDPSⅡ(医) 2年前期	医療の質や効率性の向上、医療技術の評価等の課題があり、急性期入院医療の包括化が検討された。わが国初の診断群分類の日本版DRGが試行され、2003年4月からは新たな診断群分類(DPC)が開発された。今日では、診断群分類による一日あたりの包括支払制度・DPC/PDPSと称されている。 本講では、DPC/PDPSの基礎知識を学習する。 1. DPCの理解1 2. DPCの理解2 3. DPCの理解3 4. DPCの理解4 5. DPCの運用1 6. DPCの運用2 7. DPC例題1 8. DPC例題2 9. DPC例題3 10. DPC例題4 11. DPC例題5 12. DPC例題6 13. DPC例題7 14. DPC例題8 15. DPC例題9	松古富美子	2
簿記基礎 1年前期	企業の経理分野では、コンピューターを利用した合理化・効率化が飛躍的な進化を遂げてますが、コンピューターは計算・集計の道具であり、データをもとに分析し決定するのは、やはり簿記の知識を持った人であることに変わりはありません。この授業では、将来就職した後に必ず役立つ、簿記の基礎知識を体系的に学習します。 1. ガイダンス 2. 日常の手続き1 3. 日常の手続き2 4. 日常の手続き3 5. 商品売買1 6. 商品売買2 7. 現金 8. 当座預金 9. 小口現金 10. 手形1 11. 手形2 12. その他の期中取引1 13. その他の期中取引2 14. その他の期中取引3 15. 試算表の作成	吉田智子	2

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位
簿記応用 1年後期	<p>企業の経理分野では、コンピューターを利用した合理化・効率化が飛躍的な進化を遂げていますが、コンピューターは計算・集計の道具であり、データをもとに分析し決定するのは、やはり簿記の知識を持った人であることに変わりはありません。この授業では、将来就職した後に必ず役立つ、簿記の基礎知識を体系的に学習します。</p> <p>1. 試算表の作成1 2. 試算表の作成2 3. 決算の手続き1 4. 決算の手続き2 5. 決算の手続き3 6. 決算の手続き4 7. 決算の手続き5 8. 決算の手続き6 9. 決算の手続き7 10. 決算の手続き8 11. 伝票式合計 12. 総合問題演習1 13. 総合問題演習2 14. 総合問題演習3 15. 簿記応用のまとめ</p>	吉田智子	2
電子会計実務基礎 2年前期	<p>企業では、伝票処理や財務諸表の作成といった会計実務には、会計ソフトが使われています。このような会計ソフトを利用した会計実務を「電子会計」と呼びます。企業の経理処理で最も利用されている弥生会計のソフトを使い、電子会計の基礎を学びます。</p> <p>1. ガイダンス 2. 企業活動と会計処理1 3. 企業活動と会計処理2 4. 会計ソフトの操作1 5. 会計ソフトの操作2 6. 会計ソフトの操作3 7. 企業の業務と会計処理1 8. 企業の業務と会計処理2 9. 企業の業務と会計処理3 10. 企業の業務と会計処理4 11. 企業の業務と会計処理5 12. 企業の業務と会計処理6 13. 会計データの入力処理と集計 14. 会計情報の活用1 15. 会計情報の活用2</p>	吉田智子	2
電子会計実務応用 2年後期	<p>企業では、伝票処理や財務諸表の作成といった会計実務には、会計ソフトが使われています。このような会計ソフトを利用した会計実務を「電子会計」と呼びます。企業の経理処理で最も利用されている弥生会計のソフトを使い、電子会計の基礎から応用を学びます。</p> <p>1. ガイダンス 2. 個別論点 3. 決算の手続き 4. 会計データの新規作成(導入処理)1 5. 会計データの新規作成(導入処理)2 6. 会計データの新規作成(導入処理)3 7. 製造業における原価情報1 8. 製造業における原価情報2 9. 製造業における原価情報3 10. 予算管理と経営分析指標1 11. 予算管理と経営分析指標2 12. 収益構造分析と短期利益計画1 13. 収益構造分析と短期利益計画2 14. 資金の管理 15. 電子会計のまとめ</p>	吉田智子	2

専門科目単位数 101

食物栄養学科

【専任教員】

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
食品開発実習 1年前期	<p>農産・畜産・水産などの主原料、副原料、さらに食品添加物などの幅広い実用的な知識をアクティブラーニングを取り入れて修得する。すなわち、実習で製造されたものが嗜好性、安全性、貯蔵性などを考慮し、食品加工の実用的な知識や技術を深めることを目指します。また、実習・レポート・発表を通して、数量的に考える能力や情報処理・プレゼンテーションなどの能力を高めることを目指します。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 食品開発の品質評価法(講義・実験) 3. 麴の製造 講義 4. 味噌の製造 発表 5. 大豆の加工 講義 6. 餡の製造 発表 7. 海藻の加工 発表 8. デンプンの特性 講義 9. 魚醤油・アンチョビ 発表 10. 乳酸菌の利用 講義 11. 牛乳(チーズの製造) 発表 12. バターの製造 発表 13. ハムの製造 発表 14. 酵母の特性 魚醤の製造 15. みそ・魚醤の評価 ハムの評価</p>	岡崎尚	1
フードスペシャリスト論 1年前期	<p>フードスペシャリストの仕事には、食品の開発調査、官能評価・鑑別、顧客に対する情報提供・促進、さらに食育活動を担うなどがある。そのための知識と技術を得なければならない。本講座ではフードスペシャリストの意義とその概要、さらにその活用を知るために総論的に学び、食の商品企画、流通、販売や消費の現場において活躍できる専門家をめざす。授業の一部で、アクティブラーニング形式を取り入れる。</p> <p>1. フードスペシャリストとは 2. 人類と食物 3. 世界の食 4. 日本の食1 5. 日本の食2 発表 6. 現代日本の食生活1 7. 現代日本の食生活2 8. 食品産業の役割1 9. 食品産業の役割2 10. 食品産業の役割3 11. 品質規格と表示1 発表 12. 品質規格と表示2 13. 品質規格と表示3 14. 食情報と消費者保護1 15. 食情報と消費者保護2</p>	岡崎尚	2
生化学 I (管) 1年後期	<p>栄養士になるには多くの専門的な科目を学ばなければなりません。なかでも、生化学の知識を身につけることは必要不可欠です。生化学では、食と健康に関する様々な反応や現象の基礎を学びます。生化学では、食品中の成分が生体内でどのように変化して栄養となっているかを養うことを目標とします。生化学の内容は広範囲であります。したがって、IとII(2年前期)に分割し、理解を深めます。</p> <p>1. シラバスと生体成分 2. 人体の仕組み 3. アミノ酸の化学 4. たんぱく質の化学 5. 単糖類の化学 6. オリゴ糖および多糖類の化学 7. 脂質の化学 8. 核酸 9. 核酸の複製 10. たんぱく質の生合成 11. 酵素の性質 12. 酵素の反応速度論 13. 補酵素 14. ビタミン 15. 前期の復習</p>	岡崎尚	2
食品学実験(管) 1年後期	<p>食品学の講義で学ぶ食品に関する知識を実験で確認し、理解すること、食品分析の基本操作を修得することを目的として実施する。本学に入学して初めて『化学実験』を経験する学生が多いことを考慮して、化学実験における基本的な操作法から始めて、レポートの書き方(実験過程の記録・観察、結果の整理・考察)などを修得する。このことは現場で作業を行う際にも十分に役に立つ。</p> <p>1. 実験の心構え・食品分析 実験の基礎知識1 2. 食品分析実験の基礎知識2と実験1 3. 実験2でんぷんの分離と顕微鏡観察 4. 実験3小麦でんぷん粒とグルテンの単離 5. レポート1-3の整理と基礎知識③-1酸塩基とpH 6. 実験4食品中の糖度・塩分・pHの測定 7. 実験5食品の水分・灰分の定量 8. 実験5続と実験6-1非酵素的褐変に関する実験 9. 実験6-2酵素的褐変反応実験7食品の色素成分 10. レポート4-7の整理と基礎知識③-2酸・塩基 11. 基礎知識③中和滴定実験8-1標準溶液の調製 12. 実験8-2食品中の有機酸量の測定 13. 実験9食品中のビタミンCの定量 14. 実験10クリームからバター粒を作る 15. レポート整理(実験8~10)</p>	岡崎尚	1

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
食品微生物学(管) 1年後期	<p>食生活の中に深くかかわっている微生物について学ぶことは、食品の加工だけではなく食品の腐敗や食品衛生の面からも重要なことである。具体的には、微生物の種類と特徴、微生物の生育、微生物の殺菌、発酵食品、食品の腐敗などについて、実際に流通・販売されている食品を取り上げながら基礎から応用までを学び、食品及び食品衛生と微生物の関係を理解する。授業の内容によって、アクティブラーニング形式を取り入れる。</p> <p>1. 微生物学の歴史と微生物の利用 2. 微生物の分類：カビ 3. 微生物の分類：キノコ 4. 微生物の分類：酵母 5. 微生物の分類：細菌1 6. 微生物の分類：細菌2 7. 微生物の観察 発表 8. 微生物の栄養 9. 微生物の増殖 10. 微生物の利用1 11. 微生物の利用2 12. 微生物の利用3 13. 微生物の利用4 14. 安全な調理・加工 15. 発酵食品を作る 発表</p>	岡崎尚	2
食品微生物学(調) 1年後期	<p>食生活の中に深くかかわっている微生物について学ぶことは、食品の加工だけではなく食品の腐敗や食品衛生の面からも重要なことである。具体的には、微生物の種類と特徴、微生物の生育、微生物の殺菌、発酵食品、食品の腐敗などについて、実際に流通・販売されている食品を取り上げながら基礎から応用までを学び、食品及び食品衛生と微生物の関係を理解する。授業の内容によって、アクティブラーニング形式を取り入れる。</p> <p>1. 微生物学の歴史と微生物の利用 2. 微生物の分類：カビ 3. 微生物の分類：キノコ 4. 微生物の分類：酵母 5. 微生物の分類：細菌1 6. 微生物の分類：細菌2 7. 微生物の観察 発表 8. 微生物の栄養 9. 微生物の増殖 10. 微生物の利用1 11. 微生物の利用2 12. 微生物の利用3 13. 微生物の利用4 14. 安全な調理・加工 15. 発酵食品を作る 発表</p>	岡崎尚	2
生化学Ⅱ(管) 2年前期	<p>一年生後期の生化学で使ったテキストを使用します。この科目を受講することにより生化学全体を習得できます。ここでは、体の営みと物質の流れを知ることにより、健康的な食生活および栄養問題を理解するための基本的な代謝調節などに関する知識を学習します。</p> <p>さらに、健康志向の風潮の中で、マスコミなどの情報を正しく理解することができる知識および知恵も養います。</p> <p>1. シラバス、核酸 2. 核酸の複製 3. たんぱく質の生合成 4. 遺伝子操作など 5. 酵素の性質 6. 酵素の反応速度論 7. 補酵素など 8. ビタミンのはたらき 9. 水分代謝 10. 無機質のはたらき 11. 栄養素の消化と吸収 12. 生体の恒常性 13. エネルギー 14. 免疫 15. 全体のまとめ</p>	岡崎尚	2
食品開発演習Ⅱ 2年後期	<p>食品開発に向けた総合的な学習を行う。地元の食品企業などで実際に問題となっている課題について、企業の技術者からその課題の説明及び課題解決の依頼を受け、学生が主体となって課題解決にあたる。授業形式は特に決まっていないが、実務的な経験を分析・測定や試作などによって修得する。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 加工食品の調味 3. 加工食品の品質 4. 食品の分析Ⅰ 5. 食品の分析Ⅱ 6. 食品添加物Ⅰ 7. 食品添加物Ⅱ 8. 食品の加熱殺菌 9. 食品の加熱殺菌 10. 加工食品の表示 11. 具体的取組Ⅰ 12. 具体的取組Ⅱ 13. 具体的取組Ⅲ 14. 具体的取組Ⅳ 15. 取り組みのまとめ 発表</p>	岡崎尚	2
インターンシップ 2年後期	<p>インターンシップは、学生が在学中に企業等において自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うものである。これらの体験によって、社会人になるための意識を高め、自身の適性見極め、学習意欲の向上、さらには社会人としてのマナーやあるべき態度を身につけてほしいと考えている。</p> <p>1. ガイダンス 2. 事前研修 3. インターンシップ 4. インターンシップ 5. インターンシップ 6. インターンシップ 7. インターンシップ 8. インターンシップ 9. インターンシップ 10. インターンシップ 11. インターンシップ 12. インターンシップ 13. インターンシップ 14. インターンシップ 15. 報告 まとめ</p>	岡崎尚	2

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
フードスペシャリスト特論 2年後期	2年次12月に実施される「フードスペシャリスト」資格認定試験の合格に向けた実力養成講座である。各分野の教員がこれまでの復習を行いながら、新たな情報も加味し、フードスペシャリストとしての知識を着実に身につけさせることを目的としている。 2年間の総復習ともなるため、資格取得希望者のみならず、是非とも受講してほしい科目である。 1. オリエンテーション 模擬試験 2. フードスペシャリスト特論 3. フードスペシャリスト特論 4. 食物学 5. 食物学 6. 食品の流通・消費 7. 食品の流通・消費 8. 食品の官能検査 9. 食品の安全性 10. 食品の安全性 11. 調理学 12. 調理学 13. 栄養と健康 14. 栄養と健康 15. まとめ	岡崎尚	2
栄養調理特論(調) 2年後期	調理師技能評価試験にかかる学科試験免除のための「技術考査」合格に向けた実力養成講座である。栄養調理コース調理師取得卒業後、6年間の実務経験ののち、厚生労働省が指定する調理技術技能評価試験を受けることができるが、在学中に「技術考査」試験に合格しておけば、6年後の学科試験は免除されることになり、専門調理師にまた一步近づくこととなる。2年間の総復習ともなるため、是非とも受講してほしい科目である。 1. オリエンテーション 模擬試験 2. 栄養学 3. 栄養学 4. 食品学 5. 食品学 6. 食品衛生学 7. 食品衛生学 8. 模擬試験 9. 調理理論 10. 調理理論 11. 食文化概論 12. 調理実習 13. 調理実習 14. 公衆衛生学 15. 総復習、まとめ	岡崎尚	2
食品衛生学(管) 1年前期	食品を起因とした衛生上及び健康上の危害を未然に防ぐことは、食品に係わる栄養士にとって重要な責務である。まず食品衛生行政、関係法規を理解する。次に様々な食中毒、自然毒、化学毒、食品添加物など実際に現場で起こっていること、行われていることを参考にしながら基礎知識を学修する。また、食品のHACCPによる衛生管理についても解説を行う。一部の授業で学生による研究発表を取り入れる。 1. 食品衛生と法規 2. 食品と微生物 3. 食品の変質 4. 食中毒の分類と発生状況 5. 微生物による食中毒1 6. 微生物による食中毒2 7. ウイルスによる食中毒、研究発表 8. 寄生虫疾患、動物由来感染症、経口感染症 9. 自然毒による食中毒 10. 食品汚染物質 11. 食品添加物及び残留農薬等1 12. 食品添加物及び残留農薬等2 13. 食品表示制度 14. 食品衛生管理 15. 衛生管理計画の作成・発表	有吉邦江	2
食品衛生学(調) 1年後期	今日、食品に起因する衛生上、健康上の危害の発生を未然に防止することは、重要課題である。食品衛生行政、関係法規を理解すると同時に、食品を介した健康危害(微生物、自然毒、化学毒、食品添加物、農薬・重金属・抗生物質などによる食品汚染)や、その防止対策について学修する。また、食品表示、水の衛生、HACCPによる衛生管理についても解説を行う。授業の一部にアクティブラーニングを取り入れる。 1. 食品衛生と食品衛生行政 2. 食品と微生物 3. 食品の腐敗・変質と防止 4. 食中毒の概要と発生状況 5. 微生物による食中毒1 6. 微生物による食中毒2 7. 微生物による食中毒3 8. 寄生虫による食中毒 研究発表 9. 経口感染症と動物由来感染症 10. 自然毒による食中毒 11. 有害物質による食品汚染と健康障害 12. 食品添加物1概要 13. 食品添加物2各論 研究発表 14. 器具・容器包装の衛生 15. まとめ	有吉邦江	2
環境と健康(調) 2年前期	私たちを取り巻く自然環境・人為的環境及びその現状を理解し、それが人の健康にどのように影響しているかを理解する。また、現状の課題に対し、どのように行動していけば、持続可能な社会づくりができるのか、柔軟に対応できる能力を身につける。 1. 「環境」とは 2. 地球を知る 3. 大気環境 4. 水環境 5. 身近な環境問題とその対策 6. 廃棄物処理と循環型社会づくり 7. 放射性物質の影響 8. 地球温暖化と脱炭素社会づくり 9. 地球環境問題 10. 環境保全活動 11. 最近の環境問題 12. 化学物質と生活環境 13. 食と環境 14. 環境問題に対し私たちは何をすべきか1 15. 環境問題に対し私たちは何をすべきか2	有吉邦江	2

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
公衆衛生学(管) 2年後期	<p>公衆衛生学とは一言でいうと、人々の健康を維持増進するための実践科学である。健康管理業務の担い手の一人として、栄養だけでなく、幅広い視野で健康を捉えることができるようになるため、健康に係る目標、現状、課題等について学修する。</p> <p>1. 公衆衛生学の概念 2. 保健統計 3. 疫学 4. 健疾病予防と健康管理 5. 主な疾病の予防1 6. 主な疾病の予防2 7. 環境保健 8. 地域保健と保健行政 9. 母子保健、中間試験 10. 学校保健 11. 産業保健 12. 高齢者保健・医療・介護 13. 精神保健 14. 国際保健医療 15. 保健医療福祉の制度と法規</p>	有吉邦江	2
公衆衛生学(調) 2年後期	<p>公衆衛生学とは一言でいうと、人々の健康を維持増進するための実践科学である。健康管理業務の担い手の一人として、栄養だけでなく、幅広い視野で健康を捉えることができるようになるため、健康に係る目標、現状、課題等について学修する。</p> <p>1. 公衆衛生学の概念 2. 保健統計 3. 疫学 4. 疾病予防と健康管理 5. 主な疾病の予防1 6. 主な疾病の予防2 7. 環境保健 8. 地域保健と保健行政 9. 母子保健、中間試験 10. 学校保健 11. 産業保健 12. 高齢者保健・医療・介護 13. 精神保健 14. 国際保健医療 15. 保健医療福祉の制度と法規</p>	有吉邦江	2
衛生関連法(調) 2年前期	<p>衛生法規は、憲法に規定された「公衆衛生の向上、増進」を目的に策定されたものである。調理師として、食中毒などの事故や事件を未然に防ぐとともにトラブル等にも的確に対応できるように、法的根拠を持った行動規範を身に着ける。</p> <p>1. 衛生法規の概要 2. 調理師法1 3. 調理師法2 4. 食品衛生法1 5. 食品衛生法2 6. 食品衛生法3 7. 食品安全基本法、中間試験 8. 食品表示法1 9. 食品表示法2 10. その他の食品製造関連法 11. 調理師に関する法律① 感染症関係法規 12. 調理師に関する法律2 健康増進法等、研究発表 13. 調理師に関する法律3 衛生行政、学校保健関係 13. 調理師に関する法律4 労働関係法規 15. 調理師に関する法律5 その他の法規</p>	有吉邦江	2
食品衛生対策(調) 2年前期	<p>食品衛生学で学んだ基礎理論をもとに、調理師として最も大切な飲食物による健康被害が起きないよう理論と実践の結合をめざし学ぶ。そのためには、調理現場での予防対策技術の習得、さらには自らの責任で法令遵守と、加えて自主衛生管理の重要性について学ぶ。一部の授業でアクティブラーニングを取り入れる。</p> <p>1. 食品衛生対策と食品衛生 行政のしくみ 2. 食品の表示と法規性、成分規格基準 3. 食品調理施設・整備の衛生管理と点検 4. 給水及び汚水・汚物処理 5. 調理従事者の健康管理 6. 食材の衛生管理1 7. 食材の衛生管理2 8. 異物混入防止・衛生害虫対策、中間試験 9. 食品の調理器具、容器包装の衛生管理等 10. 消毒・殺菌 11. 食品事故対応 12. 課題発表・質疑応答 13. 食品衛生管理1 14. 食品衛生管理2 15. 大量調理施設衛生管理マニュアル</p>	有吉邦江	2
海外食生活事情 1年後期	<p>食生活は、風土と文化により育まれる。その国の食習慣や風俗の見聞を広げることができることと、食文化の奥深さを理解できるようになるために、本場の調理師の指導による調理体験や歴史的建造物等の見学を行う。毎年2月中旬～3月初旬、3泊4日を予定している。行き先は11月ごろ発表される。経費は参加人数によるが、10～15万円ぐらい。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 研修先の調査 3. 研修先の決定 4. 募集活動 11月中旬 5. 現地での調理体験の場所 調査と交渉 6. ホテル・レストラン等のメニュー検討 7. 旅費の検討 8. 市場・バザールなど視察したい施設の検討 9. パスポート・保険などの手続き 10. 添乗員による現地説明 11. 研修旅行のパンフレット作成 12. 研修旅行1日目(出発) 13. 研修旅行2日目 14. 研修旅行3日目 15. 研修旅行4日目(帰国)</p>	下地隆	2
調理学実習Ⅲ(調) 1年後期	<p>中国料理の特徴を理解できるようになるため、中国の歴史、四大系統、代表料理、基礎となる調理法について学ぶ。また、現代の日本における中国料理と和食とのつながりを理解するため、食生活への影響等について学ぶ。</p> <p>1. 中国料理の系統別特色と代表料理について 2. 中国料理の代表的調理法 3. 調理法と健康について 4. 食材の有効利用 5. 炒め物(基礎) 6. 揚げ物(基礎) 7. 煮物(基礎) 8. 蒸し物(基礎) 9. 点心(基礎) 10. 精進料理(基礎) 11. パーティー料理Ⅰ 12. パーティー料理Ⅱ 13. パーティー料理Ⅲ 14. 日本で生まれた中国料理 15. まとめ</p>	下地隆	1

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
調理学実習Ⅲ(管) 2年前期	調理における専門知識と技術の習得ができるようになるために、日本料理・西洋料理・中国料理の各分野の専門調理師より専門的な調理を学ぶ。また、それぞれの料理の特徴・食文化・食事作法など実践的な応用も身につける。 1. 中国料理1 2. 西洋料理1 3. 日本料理1 4. 中国料理2 5. 西洋料理2 6. 日本料理2 7. 中国料理3 8. 西洋料理3 9. 日本料理3 10. 中国料理4 11. 西洋料理4 12. 日本料理4 13. 中国料理5 14. 西洋料理5 15. 日本料理5	下地隆、松木稔、下川健次	1
新調理システム特論 2年前期	昨今の食の安全・安心をより確実にするや、安全を確保する技術の取得を理解するため、調理を科学的に分析し、安全な調理をデジタル化することについて学ぶ。 対面授業で行われるため、本学新型コロナウイルス感染症対策委員会から定められた新型コロナウイルス感染予防対策を講じた上で実習を行う。 1. 新調理システム概論 2. システム化における衛生管理 3. クックチルシステムとは 4. 真空調理法とは 5. クックチルシステムの実践 6. 真空調理法実践 7. 凍結含浸法 8. 新調理システム総論 9. 新調理システムの最新事例 10. 総合講義 11. まとめ	下地隆	1
給食施設・設備(調) 2年前期	科学的衛生、安全を正確に理解できることと、新調理システムを発展的にとらえ、より安全、衛生的な「食」についての知識を理解できるようにするために、施設各種の厨房作りの基礎・基本について学ぶ。 1. 施設と設備、安全管理、機能区分 2. 調理施設の種類、機器について 3. 新調理システムについて 4. 真空調理実習 5. 真空調理実習 6. 真空調理実習 7. クックチルシステム 8. クックチルシステム 9. クックチルシステム 10. クックチルシステム 11. クックチルシステム 12. 総合実習 13. 総合実習 14. 総合実習 15. 凍結含浸法	下地隆	2
調理学実習Ⅴ(調) 2年前期	より実践的な料理・原価・売価設定等、商品として確立された料理の作り方を理解できるようになるため、有名料理店の代表料理及び特殊調味料、特殊材料を使用した実習について学ぶ。さらに各分野への応用性を身につけるため、大量調理における衛生、安全性の重要性を認識させる。 1. 四川料理とその代表料理 2. 広東料理とその代表料理 3. 上海料理とその代表料理 4. 北京料理とその代表料理 5. 宮廷料理とその代表料理 6. 新調味を使った新しい中国料理 7. 香港における飲茶と代表料理 8. 創作中国料理の紹介と作成 9. 特殊調味料、特殊材料とその使用方法1 10. 特殊調味料、特殊材料とその使用方法2 11. フルコースの考え方と提供方法 12. フカヒレを題材としてのフルコース 13. 中国料理と大量調理への基礎 14. 中国料理と大量調理への応用 15. まとめ	下地隆	1
総合調理実習Ⅰ(調) 2年後期	各自班編成により独自のメニューを作成できるようになるために、1年次で履修した基礎を応用することを学ぶ。また、「給食施設・設備」で学んだ新調理システムを応用しながら試作、学内給食として提供し、栄養・色彩・原価等を本学教職員などの第三者評価していただきながら実践する。「総合調理実習Ⅱ」と連携して行う。 1. オリエンテーション 2. 試作、プレゼンテーション 3. 試作 4. 提供 5. 試作 6. 提供 7. 試作 8. 提供 9. 試作 10. 提供 11. 試作 12. 提供 13. 試作 14. 提供 15. まとめ	下地隆	1
総合調理実習Ⅱ(調) 2年後期	レストラン運営に必要な知識を習得するために、学内給食で実践提供を体験し、接客・マナーの基礎応用について学ぶ。原価管理・評価分析等を組み入れた授業とし、「総合調理実習Ⅰ」と連携して行う。 1. オリエンテーション 2. 模擬練習 3. 次回準備、模擬練習 4. 実践・アンケート集計 5. 次回準備、模擬練習 6. 実践・アンケート集計 7. 次回準備、模擬練習 8. 実践・アンケート集計 9. 次回準備、模擬練習 10. 実践・アンケート集計 11. 次回準備、模擬練習 12. 実践・アンケート集計 13. 次回準備、模擬練習 14. 実践・アンケート集計 15. まとめ	下地隆	1

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
栄養学総論(管) 1年前期	<p>私たちは食物を摂取することによって、生命活動を維持している。この科目では、栄養の概念およびその意義についての基本的な知識を身につける。また、各栄養素の機能や、摂取した食物の消化、吸収、代謝について学ぶ。</p> <p>1. 栄養の概念 2. 炭水化物の栄養1 3. 炭水化物の栄養2 4. 脂質の栄養1 5. 脂質の栄養2 6. たんぱく質の栄養1 7. たんぱく質の栄養2 8. ビタミンの栄養1 9. ビタミンの栄養2 10. ミネラルの栄養1 11. ミネラルの栄養2 12. 水の機能 13. 食物の摂取 14. エネルギー代謝 15. 栄養学のあゆみ</p>	津村なみえ	2
栄養学総論(調) 1年前期	<p>栄養とは食物をとおして、人の健康状態を高めるものである。健康的な食生活を送るために、正しい栄養学の知識を身につけるとともに、私たちの食生活の現状と健康づくりについて学ぶ。また、各栄養素の機能や、食物摂取のしくみと体内にとり入れられた食物の消化、吸収、代謝について学ぶ。</p> <p>1. 栄養素の機能と健康1 2. エネルギー代謝と食事摂取基準1 3. 栄養素の機能と健康2 4. 栄養素の機能と健康3 5. 栄養素の機能と健康4 6. 栄養素の機能と健康5 7. 栄養素の機能と健康6 8. 栄養素の機能と健康7 9. 栄養素の機能と健康8 10. 栄養素の機能と健康9 11. 栄養素の機能と健康10 12. 消化と吸収1 13. 消化と吸収2 14. エネルギー代謝と食事摂取基準2 15. エネルギー代謝と食事摂取基準3</p>	津村なみえ	2
応用栄養学(調) 1年後期	<p>私たちは誰もが、誕生から成長・発達、加齢するという過程を経る。生涯を通して健康で適切な食生活を実践するために、それぞれのライフステージの特徴とそれに応じた栄養の特性を学ぶ。また、疾病時における栄養の特徴を理解するために、病態と栄養、食事療法の基本的知識についても学ぶ。</p> <p>1. 成長・発達・加齢 2. 妊娠期の栄養 3. 授乳期の栄養 4. 乳児期の栄養 5. 幼児期の栄養 6. 学童期の栄養 7. 思春期の栄養 8. 食物アレルギーと栄養 9. 成人期・更年期の栄養 高齢期の栄養 10. 食事療法 11. 消化管の病気と栄養 12. 膵臓・肝臓・胆嚢の病気と栄養 13. 循環器の病気と栄養 14. 代謝性疾患と栄養1 15. 代謝性疾患と栄養2 その他疾患の栄養</p>	津村なみえ	2
食品加工学実習(調) 2年後期	<p>食品加工は原材料に物理的、化学的、生物的な処理を加えて、原材料にはなかった味や形態、保存性などの新しい価値を付与することを目的として行われる。本実習では、身近で代表的な加工食品を取り上げ、これらを実際に製造することを通して、食品加工に関する知識や技術への理解を深める。</p> <p>1. オリエンテーション 豆類の加工 2. オリエンテーション 豆類の加工 3. 野菜の加工・調味料 4. 野菜の加工 5. 調味料 6. いも類・畜肉の加工 7. いも類の加工 8. 畜肉の加工 9. 豆類・乳の加工 10. 豆類の加工 11. 乳の加工 12. 果実類の加工 13. 果実類の加工 14. 果実類の加工 15. 課題実習</p>	津村なみえ	1
食育インストラクター特論(調) 2年後期	<p>1月に行われる食育インストラクター認定試験合格をめざし、食育の必要性和食育に必要な知識を学ぶ。また、2年間で学んだ専門的な知識や技術を発展させ、食育指導者として社会で活躍できることをめざす。実践的な食育実習として、小学生を対象とした食育教室の運営も行う。</p> <p>1. なぜ食育か 2. 食事バランス 3. 食育教室の運営1 4. 食育教室の運営2 5. 食育教室の運営3 6. 食育教室の運営4 7. 食育教室の運営5 8. 食文化の伝承1 9. 食文化の伝承2 10. 食文化の伝承3 11. 食の安全・安心 12. 選食力 13. 日本と世界の食糧事情 14. おいしさと科学 15. まとめ</p>	津村なみえ	2
応用栄養学(管) 1年前期	<p>人生における各ライフステージにおいての各世代の特性を知り、生理的変化に対応できる栄養管理(栄養・食生活)について学ぶ。そして健康で豊かな生活を送るための栄養ケアのあり方、および疾病・疾病予防・生活習慣病等の問題点を考慮し、健康で健やかな一生を送るための栄養ケアマネジメントの具体的な手法を理解できるように学ぶ。学校での経験を生かして実務家教員が授業を行っていく。</p> <p>1. 日本人の食事摂取基準 2. ライフステージ別食事摂取基準 3. 妊娠期の栄養 4. 妊娠期の栄養 授乳期の栄養 5. 新生児期・乳児期の栄養 6. 乳児期の栄養 7. 幼児期の栄養 8. 幼児期の栄養 9. 学童期の栄養 10. 思春期の栄養 11. 成人期・更年期の栄養 12. 高齢期の栄養 13. 高齢期の栄養 14. 運動・スポーツと栄養 15. 環境と栄養</p>	中野尚子	2

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
応用栄養学実習(管) 1年後期	<p>応用栄養学で学習した知識を基礎に、各ライフステージ別にふさわしい栄養の取り方、調理の方法を実習し、栄養士業務の基礎を学ぶ。グループを編成してテーマに沿って献立の作成・実習を行い、そのつど内容の評価を発表形式で行う。乳児期から老年期まで各栄養素の特質・個人差・環境など人間全体としての望ましい食事作りについて理解出来る様に学ぶ。学校での経験を基に実務家教員が行っている。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 献立計画と乳児栄養 3. 乳児栄養 4. 献立計画と乳児栄養 5. 幼児栄養 6. 食物アレルギー 代替食おやつの実習 7. 母性栄養 8. 母性栄養 9. 学童期栄養 学校給食 10. 学校給食の実習 11. 成人期栄養 12. 成人期の実習 13. 高齢期栄養 14. 高齢期の実習 15. まとめ</p>	中野尚子	1
給食経営管理論(管) 1年前期	<p>給食の概要、定義、目標を学び、医療施設・高齢者福祉施設・児童福祉施設・学校・事業所等の特定多数人を対象とした特定給食施設において、継続した食事を提供する特別な配慮を必要とする給食経営管理が理解できるように学ぶ。利用者の身体、栄養状態に応じた給食を提供するため、栄養管理・衛生管理・設備管理・食材管理・価格管理等を学ぶ。学校給食での経験を基に実務家教員が行っている。</p> <p>1. 第1章 2. 第2章 3. 第2章 4. 第2章 5. 第2章 6. 第3章・第4章 7. 第5章 8. 第5章 9. 第6章 10. 第7章 11. 第7章 12. 第7章 13. 第8章 14. 第9章 15. まとめ</p>	中野尚子	2
給食管理実習 I (管) 1年後期	<p>給食経営管理論で習得した知識を基に給食サービス提供に関する技術を学ぶ。本学附属の幼稚園児を対象として120食規模の給食提供を行う。給食提供の計画・実施・反省・評価まですべて学生自身で運営し、栄養士として必要な栄養・食事管理、調理作業管理、安全衛生管理、情報処理管理等の能力を養うことが出来るように学ぶ。食に関する実践的な指導を学校給食での経験を基に実務家教員が行っている。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 計画 3. ポスター・給食だより作成 4. 試作 5. 給食実施に向けて事前準備 6. 実施1 7. 実施2 8. 実施3 9. 実施4 10. 実施5 11. 実施6</p>	中野尚子	1
給食実務実習(管) 1年後期	<p>給食経営管理論で習得した知識を基に給食サービス提供に関する技術を学ぶ。本学附属の幼稚園児を対象として120食規模の給食提供を行う。給食提供の計画・実施・反省・評価まですべて学生自身で運営し、栄養士として必要な栄養・食事管理、調理作業管理、安全衛生管理、情報処理管理等の能力を養うことが出来るように学ぶ。食に関する実践的な指導を学校給食での経験を基に実務家教員が行っている。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 計画 3. ポスター・給食だより作成 4. 試作 5. 給食実施に向けて事前準備 6. 実施1 7. 実施2 8. 実施3 9. 実施4 10. 実施5 11. 実施6</p>	中野尚子	1
給食管理実習 I (管) 2年前期	<p>給食経営管理論で習得した知識を基に給食サービス提供に関する技術を学ぶ。本学附属の幼稚園児を対象として120食規模の給食提供を行う。給食提供の計画・実施・反省・評価まですべて学生自身で運営し、栄養士として必要な栄養・食事管理、調理作業管理、安全衛生管理、情報処理管理等の能力を養うことが出来るように学ぶ。食に関する実践的な指導を学校給食での経験を基に実務家教員が行っている。</p> <p>1. 計画 2. ポスター・給食だより作成 3. 試作 4. 実施1 5. 実施2 6. 実施3 7. 実施4 8. 実施5 9. 実施6 10. 実施7</p>	中野尚子	
給食実務実習(管) 2年前期	<p>給食経営管理論で習得した知識を基に給食サービス提供に関する技術を学ぶ。本学附属の幼稚園児を対象として120食規模の給食提供を行う。給食提供の計画・実施・反省・評価まですべて学生自身で運営し、栄養士として必要な栄養・食事管理、調理作業管理、安全衛生管理、情報処理管理等の能力を養うことが出来るように学ぶ。食に関する実践的な指導を学校給食での経験を基に実務家教員が行っている。</p> <p>1. 計画 2. ポスター・給食だより作成 3. 試作 4. 実施1 5. 実施2 6. 実施3 7. 実施4 8. 実施5 9. 実施6 10. 実施7</p>	中野尚子	

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
給食管理実習Ⅱ(管) 2年後期	事業所・社会福祉施設(保育園、児童福祉施設、特別養護老人ホーム)、小学校において、集団給食施設における栄養士、管理栄養士の役割や業務について理解を深め、給食提供時に必要な専門知識および技術を学ぶ。個人又は2～4人程度のグループ単位の実習で、事前に実習課題の検討を行い、各施設との打ち合わせを行う。実習は5日間である。(1日8時間×5日)学校給食での経験を基に実務家教員が行っている。 1. オリエンテーション 2. 栄養管理 3. 栄養管理 4. 事務管理 5. 事務管理 6. 事務管理 7. 作業管理 8. 作業管理 9. 食品管理 10. 食品管理 11. 衛生管理 12. 衛生管理 13. 施設管理 14. 施設管理 15. まとめ	中野尚子	1
栄養指導総論(管) 1年前期	わが国では過剰栄養による肥満、生活習慣病、またそれとは真逆の低栄養等の問題がある。これらを解決するために、適切な栄養状態と食行動の実現に向けて行動科学の理論・モデルを応用し、間違った行動を変容し、習慣化できるまでを支援する栄養教育が理解できるようになるための専門知識、スキル、態度、考え方などの総合力を培うように学習する。病院・施設での経験を踏まえて講義する。 1. 栄養教育の概念1 2. 栄養教育のための理論的基礎1 3. 栄養教育のための理論的基礎2 4. 栄養教育のための理論的基礎3 5. 栄養教育のための理論的基礎4 6. 栄養教育のための理論的基礎5 7. 栄養教育のための理論的基礎6 8. 栄養教育のための理論的基礎7 9. 栄養ケア・マネジメント1 10. 栄養ケア・マネジメント2 11. 栄養ケア・マネジメント3 12. 栄養ケア・マネジメント4 13. 栄養ケア・マネジメント5 14. 栄養ケア・マネジメント6 15. 栄養ケア・マネジメント7	吉村真奈美	2
栄養指導各論(管) 1年後期	妊娠・授乳期から高齢者までの各ライフステージ・ライフスタイル別の栄養教育の展開、並びに障害者と傷病者を対象とした栄養教育が理解できるようになるため、各ライフステージ、ライフスタイル、健康状態などの特徴について学び、栄養教育関係法規をふまえて学習する。高齢者や傷病者については、病院・施設勤務での経験を踏まえて講義する。 1. 妊娠・授乳期の栄養教育 2. 乳幼児期の栄養教育1 3. 乳幼児期の栄養教育2 4. 学童期・思春期の栄養教育 5. 成人期の栄養教育1 6. 成人期の栄養教育2 7. 高齢期の栄養教育1 8. 高齢期の栄養教育2 9. スポーツ実施時の栄養教育 10. 地域社会における栄養教育 11. 臨床栄養教育とは 障害者(児)の栄養教育 12. 循環器疾患における栄養教育1 13. 循環器疾患における栄養教育2 14. 循環器疾患における栄養教育3 15. 栄養代謝疾患における栄養教育	吉村真奈美	2
栄養指導実習Ⅰ(管) 1年後期	栄養士の業務は、人々の健康を守り、はぐくむための適切な食生活のあり方を指導するために必要とされる基本的知識を身につける必要がある。栄養指導の基礎的学習が理解できるようになるために、必要な理論と技術について学ぶ。栄養士として必要な計算の方法や考え方を身につけるよう、授業で教育する。 1. 栄養教育論演習の概要 食品成分表の使い方 2. 食品群別荷重平均成分値の求め方 3. 食品構成 4. 食品交換表1 5. 食品交換表2 6. 食事摂取基準 7. 実態把握の方法 8. 情報の収集 9. 栄養診断1 10. 栄養診断2 11. 栄養診断3 12. まとめ 13. 栄養指導1 14. 栄養指導2 15. 栄養指導3	吉村真奈美	1
調理学実習Ⅶ(調) 1年後期	わが国には、季節と旬を大切にした伝統行事である五節句、人生の節目を祝う記念日、外国からの記念日、宗教行事など多くの行事食がある。本授業では料理技術の向上にとどまらず、それぞれのテーマやコンセプトに合わせた料理、盛り付け、器、カトラリーなど総合的に学習し、「食」を総合的にコーディネートし、食生活をより豊かなものにする。 1. ティービュッフェ 2. 秋の和のテーブル 3. アフタヌーンティー 4. お正月料理 5. クリスマス 6. バレンタイン 7. 桃の節句	吉村真奈美	1
調理学実習Ⅶ(調) 2年前期	わが国には、季節と旬を大切にした伝統行事である五節句、人生の節目を祝う記念日、外国からの記念日、宗教行事など多くの行事食がある。本授業では料理技術の向上にとどまらず、それぞれのテーマやコンセプトに合わせた料理、盛り付け、器、カトラリーなど総合的に学習し、「食」を総合的にコーディネートし、食生活をより豊かなものにする。 1. 春の和のテーブル 2. 端午の節句 3. 母の日 4. 中華でおもてなし 5. 慶弔と仏事 6. セタ 7. パーティー企画 8. 修了パーティー	吉村真奈美	

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
臨床栄養学(管) 2年後期	<p>栄養士は、生活習慣病などの傷病者に栄養指導や治療食の提供をすることを責務とする。各疾患の予防や治療のために栄養管理は重要である。症状や病態、治療法に対応した栄養管理は、病気の治療だけではなく、病気の進行や合併症、再発防止に繋がる。食事・栄養療法が理解できるようになるために、各疾患の原因、進行、改善、治療と栄養との関わりについて学ぶ。病院に勤務し得た知識や体験を交えて教育する。</p> <p>1. 臨床栄養学とは 栄養評価・栄養教育 2. 代謝性疾患の栄養アセスメントと栄養ケア1 3. 代謝性疾患の栄養アセスメントと栄養ケア2 4. 消化器疾患の栄養アセスメントと栄養ケア1 5. 消化器疾患の栄養アセスメントと栄養ケア2 6. 循環器疾患の栄養アセスメントと栄養ケア 7. 腎疾患の栄養アセスメントと栄養ケア 8. 中間試験 9. 呼吸器、血液疾患の栄養アセスメントと栄養ケア 10. アレルギー免疫等の栄養アセスメントと栄養ケア 11. がん、外科分野の栄養アセスメントと栄養ケア 12. 摂食機能障害の栄養アセスメントと栄養ケア 13. 乳幼児・妊産婦の栄養アセスメントと栄養ケア 14. 栄養法、薬と栄養 15. 医療制度・福祉制度</p>	吉村真奈美	2
臨床栄養学実習Ⅰ(管) 2年後期	<p>医療機関における栄養士の業務は、治療食の献立作成や栄養指導をすることが実務であると考えられる。臨床栄養学実習は、病態生理や栄養代謝などの学問を基礎として、治療食の食事計画を立て、調理をする実習である。傷病者の食事について学び、各疾患の献立作成ができるようになる。実務教員として、病院で経験したことを、授業に活かし教育する。</p> <p>1. 病院食について 2. 献立作成 3. エネルギーコントロール食1 4. エネルギーコントロール 食の調理 5. エネルギーコントロール食2 アレルギー食 6. アレルギー対応食 代替食品の利用 7. たんぱく質コントロール食 8. たんぱく質コントロールの調理 9. 脂質コントロール食 10. 脂質コントロール食の調理 11. 胃腸疾患食 12. 胃腸疾患食の調理 13. 嚥下食 14. 嚥下食の調理 15. 嚥下食の実際</p>	吉村真奈美	1
臨床栄養学実習Ⅱ(管) 2年後期	<p>病院における治療の一環としての給食を把握するとともに、栄養指導の実際について修得することを目的とする。 その内容は、病院給食の概要及び患者に対する栄養管理や食事管理ができるようになるために、病院にて実習を行い学ぶ。実務教員として、病院勤務時に実習生を受けた経験から実習について教育する。</p> <p>1. 献立作成 2. 食数把握 3. 食材調達 4. 調理 5. 配膳 6. 衛生管理 7. 諸帳簿事務処理 8. 媒体作成 9. 課題作成 10. 個別栄養管理 11. カンファレンス 12. 栄養食事指導 13. 栄養指導記録 14. 調査 15. 実習まとめ</p>	吉村真奈美	1
栄養指導実習Ⅱ(管) 2年前期	<p>栄養士の専門教育の知識や技術は、人々に伝えるだけで終わるのではなく、QOLの向上のための行動変容まで導くことが必要である。そのために必要な栄養教育・指導の実践力を身につけるための知識や技術が理解できるようになるために、栄養診断の方法や評価について学ぶ。実務教員として病院で栄養指導を行ったことを活かして、教育をする。</p> <p>1. 栄養管理状況報告 2. 栄養マネジメント 3. 栄養アセスメント1 4. 栄養アセスメント2 5. 栄養アセスメント3 6. 栄養カウンセリング 7. 栄養教育法1 8. 栄養教育法2 9. 栄養教育法3 10. 栄養評価 11. 栄養教育計画1 12. 栄養教育計画2 13. 栄養教育計画3 14. 栄養教育計画4 15. 栄養教育の実践</p>	吉村真奈美	1
調理学(管) 1年前期	<p>食材を調理して食物とするには、食品の種類、食品成分や機能、科学的・物理的性質や調理特性を知り、調理による成分変化を科学的に理解することが必要である。 調理の意義・目的を学んだ後、植物性食品・動物性食品・成分抽出素材および調味料等の調理性、その他加熱調理操作および非加熱調理操作の原理・要点について学ぶ。</p> <p>1. 調理の概要 2. おいしさとは1 3. おいしさとは2 4. 植物性食品の調理性1 5. 植物性食品の調理性2 6. 植物性食品の調理性3 7. 植物性食品の調理性4 8. 1～7のまとめ 9. 植物性食品の調理性5 動物性食品の調理性1 10. 動物性食品の調理性2 11. 動物性食品の調理性3 12. 油脂・成分抽出素材の調理性 13. 調味料・香辛料の調理性 14. 調理操作と調理機器1 15. 調理操作と調理機器2</p>	藤原久子	2

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
調理学実習Ⅰ(管) 1年前期	調理学に基づいて、調理操作の方法や特徴、調理器具の取り扱いなど基礎的な調理技術を修得することを目的とし、基本的な調理操作(計量・切る・ゆでる・煮る・蒸す・焼く・揚げる・炒める等)の方法や調理法、調味割合について学ぶ。 また、リスクマネジメントとして実習室使用にあたり、身だしなみ、手洗いを習慣づけ、基本的な衛生管理能力を身につける。 1.オリエンテーション1 2.オリエンテーション2 基本調理操作1 3.基本調理操作2 4.基本調理操作3 お菓子 5.調理操作1 6.調理操作2 7.調理操作3 8.調理操作4 9.調理操作5 10.小テスト 実技試験 11.調理操作6 12.調理操作7 13.調理操作8 14.調理操作9 15.調理操作10	藤原久子	1
調理の種類と操作(調) 1年前期	調理操作の特徴を学び、料理に合った操作・器具を選択する力を身に付ける。また、食品成分の性質や調理過程での科学変化について演習を通して理解することを目的とする。 1.オリエンテーション 非加熱調理操作1 2.加熱操作 湿式加熱操作1 3.非加熱調理操作2 加熱操作 湿式加熱操作2 4.加熱操作 湿式加熱操作3 5.加熱操作 湿式加熱操作4 6.加熱操作 湿式加熱操作5 7.加熱操作 湿式加熱操作6 8.加熱操作 乾式加熱操作1 9.加熱操作 乾式加熱操作2 10.加熱操作 乾式加熱操作3 11.加熱操作 乾式加熱操作4 12.加熱操作 乾式加熱操作5 13.加熱操作 乾式加熱操作6 14.非加熱操作および加熱操作の応用1 15.非加熱操作および加熱操作の応用2	藤原久子	2
調理学実習Ⅱ(管) 1年後期	調理学実習Ⅰで学んだ基礎的な調理操作や衛生管理の知識を踏まえ、実践的な調理技術を修得することを目的とする。和食、洋風料理、中華料理、行事食の実習を行い、各様式の献立構成、調理技法、食器・器具類の扱い方、盛り付け、配膳形式等について理解を深める。 1.お菓子 2.和食1 3.洋風料理1 4.洋風料理2 5.和食2 6.和食3 7.実技試験・小テスト 8.各国料理1 9.各国料理2 10.行事食1 11.行事食2 12.行事食3 13.中華料理1 14.中華料理2 15.和食4	藤原久子	1
調理概論(調) 1年後期	食材を調理して食物とするには、食品の種類、食品成分や機能、調理特性を理解することが必要である。 調理の概要、おいしさを構成する要因を学んだ後、植物性食品(穀類・いも・豆・種実・きのこ・野菜・果実・藻類)、動物性食品(食肉・魚介・卵・乳類)、成分抽出素材、調味料等についての特徴・調理性、各種調理器具・食器等の特徴等について学ぶ。 1.調理の概要 2.おいしさの構成1 3.おいしさの構成2 4.おいしさの構成3 5.おいしさの構成4 6.植物性食品の調理1 7.植物性食品の調理2 8.1~7のまとめ 9.植物性食品の調理3 10.動物性食品の調理1 11.動物性食品の調理2 12.その他食品の調理 13.調理設備・器具と熱源1 14.調理設備・器具と熱源2 15.演習	藤原久子	2
調理科学(調) 2年前期	食材の特性を学び、調理による食品中の科学的変化を理解することを目的とする。 調理概論で学んだ内容からより詳しく、植物性食品(穀類、いも・でんぷん類、砂糖、豆類、野菜類、果実類、種実類、きのこ類、藻類)、動物性食品(魚介類、食肉類、卵類、乳類)、その他食材(油脂類、ゲル状食品、調味料等)について学ぶ。 1.植物性食品1 2.植物性食品2 3.植物性食品3 4.植物性食品4 5.植物性食品5 6.植物性食品6 7.植物性食品7 8.1~7のまとめ 9.動物性食品1 10.動物性食品2 11.動物性食品3 12.動物性食品4 13.その他の食品1 14.その他の食品2 15.演習	藤原久子	2
献立作成(調) 2年後期	献立作成は栄養性、嗜好性、安全性、経済性などを基本的要素として、料理の種類、食品数、調理時間、作業工程等を考える必要がある。 対象者により献立作成での注意点が異なるため、基本的な献立作成の方法を理解し、それぞれの対象にあった献立作成の考え方について学ぶ。 1.オリエンテーション 2.献立作成にあたり1 3.献立作成にあたり2 4.献立作成にあたり3 5.献立作成にあたり4 6.献立作成にあたり5 7.献立内容の検討1 8.献立内容の検討2 9.献立内容の検討3 10.特定給食施設とは 11.対象別献立作成1 12.対象別献立作成2 13.対象別献立作成3 14.対象別献立作成4 15.対象別献立作成5	藤原久子	2

【非常勤講師】

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
公衆栄養学概論(管) 2年前期	<p>集団の健康問題が栄養上のどのような因子に基づくのか、問題解決のために栄養はどうあるべきかを明らかにし、疾病予防、健康増進を図るための方法を学ぶ。市町管理栄養士として、実際に公衆栄養活動に携わった経験を活かし、身近な事例を中心にグループディスカッションしながら理解を深める授業を行う。</p> <p>1. オリエンテーション 公衆栄養の概念と活動 2. わが国の健康・栄養問題の現状と課題 3. 公衆栄養活動と栄養関連法規 4. 栄養士制度と国民健康・栄養調査 5. 実施に関する指針、ツール 6. わが国の健康増進基本方針と地方計画 7. 栄養疫学 8. 公衆栄養マネジメント 9. 公衆栄養アセスメント 10. 食事摂取基準 11. 公衆プログラムの計画、実施、評価 12. 公衆栄養プログラムの展開 13. 地域集団の特性別プログラムの展開1 14. 地域集団の特性別プログラムの展開2 15. 諸外国の現状と健康・栄養政策</p>	大橋典子	2
テーブルコーディネート・マナー(調) 1年後期	<p>テーブルコーディネートの基礎知識、五感にうたえる食空間の演出を学習します。 行事食実習のテーマを知り、食文化、マナーについても学習し、パーティプランニングができる知識を深めます。 季節をとりいれ、美味しいものをより美味しく演出する「おもてなし」の心をもったフードコーディネーターの能力育成を目的とします。</p> <p>1. ハロウィンのティーパーティー 2. 秋の和のテーブル 3. アフタヌーンティー 4. お正月(お節料理) 5. クリスマスパティー 6. バレンタインデー 7. 桃の節句</p>	岡本恵子	1
テーブルコーディネート・マナー(調) 2年前期	<p>テーブルコーディネートの基礎知識、五感にうたえる食空間の演出を学習します。 行事食実習のテーマを知り、食文化、マナーについても学習し、パーティプランニングができる知識を深めます。 季節をとりいれ、美味しいものをより美味しく演出する「おもてなし」の心をもったフードコーディネーターの能力育成を目的とします。</p> <p>1. イースター 春のおもてなし 2. 端午の節句 3. 母の日 4. 中華料理 5. 精進料理 6. セタ 7. パティー企画 8. 終了パーティー</p>	岡本恵子	
調理学実習Ⅱ(調) 1年前期	<p>日本料理は、造り、汁物、焼き物、煮物、蒸し物、酢物、鍋物、ご飯等に分類される。材料に合った調理法を選び、器に気を配り、素材を生かした調理を基本に進め、美味しい料理に必要なだしや野菜や魚の味を生かすための方法や下処理そして包丁の扱い方など、日本料理の基本を身につける。</p> <p>1. 調理師としての心構え 2. 鰹だしの取り方、御飯の炊き方 3. 野菜の切り方 4. 魚の卸し方1 5. 魚の卸し方2 6. 鯛づくし 7. 鱸の持ち味料理 8. 模擬試験 9. 新緑の恵 10. 初夏の川魚 11. 茄子丸ごと 12. 夏野菜料理 13. 蛸料理 14. 暑い時に 15. スタミナ料理</p>	下川健次	1
調理学実習Ⅵ(調) 2年後期	<p>調理の仕事は、下処理、調理、盛り付けの順に流れ、また包丁で食材を加工する手先の器用さや、盛り付けなどの美的感覚が求められる。段取りや自発的な行動、臨機応変な対応を身につける。また、日本料理は、季節の到来の喜びを食材で感じていただきたいと思って作る。食材の旬を大事にして地域の美味しい海の幸、山の幸を生かした料理を実習を通じて学び、料理の創造に結びつけ幅を広げる力を身につける。</p> <p>1. 旬を丸ごと 2. 確認試験 3. 秋の恵 4. 紅葉鯛を使って 5. 松花堂弁当 6. 錦秋色々 7. 秋の会席料理 8. 冬の味覚 9. 牡蠣づくし 10. 冬を味わう 11. 祝い肴1 12. 祝い肴2 13. 祝い肴3 14. ふぐをまるごと 15. 模擬試験</p>	下川健次	1

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
食品学Ⅰ(管) 1年前期	<p>食べ物は我々の生命活動を維持している源であり、多様な食材がわれわれの食を楽しくさせてくれる。食に係わる専門職に就く場合は、食材の成分についてより深く理解し、これらの知識を有する必要がある。本講義では、食品を構成している各種成分の性質や機能及び成分間反応等を理解することを目的とする。食品学Ⅱを学ぶ際に深く理解する手助けともなる。この授業は栄養学や生化学とつながっている。</p> <p>1. 食品成分を理解するための基礎化学 2. 食品成分：水 3. 食品成分：炭水化物Ⅰ 4. 食品成分：炭水化物Ⅱ 5. 食品成分：脂質Ⅰ 6. 食品成分：脂質Ⅱ 7. 小テスト・課題、解説、質疑応答、まとめ 8. 食品成分：たんぱく質Ⅰ 9. 食品成分：たんぱく質Ⅱ 10. 食品成分：ビタミンと無機質 11. 食品の嗜好成分(色、味、臭い) 12. 食品の成分間反応 13. 食品の物性 14. 小テスト・課題、解説、質疑応答、まとめ 15. 全体のまとめ</p>	多山賢二	2
食品学Ⅱ(管) 1年後期	<p>我々の食生活は多様な食品素材の利用によって豊になっている。本講義は多様な食品素材の性状や成分について知識を持ち、理解することを目的とする。具体的には、身近な加工食品の表示から原材料を知り、その成分と食品との関わりを調べることにより、理解を確かなものとする。また、この授業の学びを通して、多種多様な食品に興味を持ち、食に係わる仕事に就くときに活かしてもらいたい。</p> <p>1. オリエンテーション、食品の表示 2. 食品成分表と食品成分の分類1 3. 食品成分表と食品成分の分類2 4. 穀類 イモ類 5. 種実類 6. 豆類 7. 野菜類、課題もしくは小テスト 8. 果実類、キノコ類、藻類 9. 魚介類1 10. 魚介類2と食肉類1 11. 食肉類2と卵類・乳類1 12. 卵類・乳類2と食用油脂・調味料 13. 香辛料・嗜好品と食品の保存と規格 14. 保健機能食品1、課題もしくは小テスト 15. 保健機能食品2、まとめ</p>	多山賢二	2
臨床医学概論(管) 2年前期	<p>病気の原因や症状の起こるメカニズムの基礎を学び、臨床栄養学を学ぶために必要な医学の基礎知識を習得する。特に人体の構造と機能、症候学、主要疾患とその概念を理解するよう講義を進める。</p> <p>1. 臨床医学概論 人体の構造と機能 2. 人体の構造と機能 3. 人体の構造と機能 4. 人体の構造と機能 5. 人体の構造と機能 6. 人体の構造と機能 7. 人体の構造と機能 8. 臨床医学総論 症状と徴候 9. 症状と徴候 10. 症状と徴候 11. 症状と徴候 12. 症状と徴候 13. 症状と徴候 14. 症状と徴候 15. 生活習慣病</p>	橋本成史	2
製菓実習(調) 2年前期	<p>毎回使用した食材及び道具・器具の名称を把握し、菓子の作成過程・仕上がりなどを学ぶ。実習を経てなぜ成功又は失敗したかを理解し、次回の実習に活かせるよう復習。これらを反復する事により、日々の生活の中で接する菓子に関心を抱く事を目的とする</p> <p>1. 和菓子実習1 2. 和菓子実習2 3. 製菓実習1 4. 製菓実習2</p>	橋本昌和	1
製菓実習(調) 2年後期	<p>毎回使用した食材及び道具・器具の名称を把握し、菓子の作成過程・仕上がりなどを学ぶ。実習を経てなぜ成功又は失敗したかを理解し、次回の実習に活かせるよう復習。これらを反復する事により、日々の生活の中で接する菓子に関心を抱く事を目的とする</p> <p>1. 製菓実習3 2. 製菓実習4 3. 製菓実習5 4. 製菓実習6 5. 製菓実習7 6. 製菓実習8 7. 製菓実習9 8. 製菓実習10 9. 製菓実習11 10. 実技 11. 実技</p>	橋本昌和	1
食品衛生学実験(管) 2年前期	<p>食品衛生学の講義によって得られた知識を実際の実験を通して確認し、調理や加工に場での実務に反映させる。前半は、食品衛生に関する器具、微生物の扱い、無菌的操作、微生物の測定など実験を通して学ぶ。また、食品中の微生物を増やさない方法として、薬剤殺菌や加熱殺菌の効果を確かめ、実務の中で使える方法を修得する。後半は、食品添加物の測定方法について学び、実際の食品で役立っていることを学ぶ。</p> <p>1. オリエンテーション 2. 空中落下菌の検査 3. 手指の衛生検査 4. 食品の微生物観察 5. 大腸菌群の検査 6. 食品中の微生物検査 7. 食品中の微生物検査 8. 食品の殺菌試験 9. まな板などの汚れ試験 10. 水分活性の測定 11. 鶏卵の鮮度試験 12. 発色剤の定量試験 13. 保存料の定量試験 14. 合成着色料の定性試験 15. 油脂の酸敗試験</p>	平田健	1

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
食品衛生学実験(調) 2年前期	食品衛生学の講義によって得られた知識を実際の実験を通して確認し、調理や加工に場での実務に反映させる。前半は、食品衛生に関する器具、微生物の扱い、無菌的操作、微生物の測定など実験を通して学ぶ。また、食品中の微生物を増やさない方法として、薬剤殺菌や加熱殺菌の効果を確かめ、実務の中で使える方法を修得する。後半は、食品添加物の測定方法について学び、実際の食品で役立っていることを学ぶ。 1. オリエンテーション 2. 空中落下菌の検査 3. 手指の衛生検査 4. 食品の微生物観察 5. 大腸菌群の検査 6. 食品中の微生物検査 7. 食品中の微生物検査 8. 食品の殺菌試験 9. まな板などの汚れ試験 10. 水分活性の測定 11. 鶏卵の鮮度試験 12. 発色剤の定量試験 13. 保存料の定量試験 14. 合成着色料の定性試験 15. 油脂の変敗試験	平田健	1
調理学実習 I (調) 1年前期	西洋料理の基本的な心構えと技術を習得し、自然の食材を大切に扱い作る楽しさを学ぶ。 1. 調理師としての心構え 2. 調理の基本 3. 調理技術の習得 4. 調理技術の習得 5. 調理技術の習得 6. 調理技術の習得 7. 調理技術の習得 8. 調理技術の習得 9. 調理技術の習得 10. 模擬テスト 11. 調理技術の習得 12. 調理技術の習得 13. 調理技術の習得 14. 調理技術の習得 15. 調理技術の習得	松木稔、田中俊弘	1
調理学実習IV(調) 1年後期	西洋料理の専門的な技術の習得を重ねる。料理作りの楽しさを知る。 1. 調理基本と技術の習得 2. 調理基本と技術の習得 3. 調理基本と技術の習得 4. 調理基本と技術の習得 5. 調理基本と技術の習得 6. 調理基本と技術の習得 7. 調理基本と技術の習得 8. 調理基本と技術の習得 9. 調理基本と技術の習得 10. 調理基本と技術の習得 11. 調理基本と技術の習得 12. 調理基本と技術の習得 調理基本と技術の習得 14. まとめ 15. 調理基本と技術の習得	松木稔、田中俊弘	1
社会福祉(管) 2年後期	社会的な課題を自らの生活に引き付けて考える。 社会福祉の理念、仕組み、サービス等について理解し、医療・保健・福祉において、栄養士の専門性を活かす場面を具体的に考える。 1. 社会保障・社会福祉とは何か 2. 社会保障・社会福祉の歴史・取り巻く環境 3. 社会保障・社会福祉の仕組み・機関・財政 4. 社会保障・公的扶助 5. 医療保険・労働者災害補償保険 6. 年金保険・雇用保険 7. 子ども家庭福祉 8. 社会保障・社会福祉・子ども家庭福祉まとめ 9. 介護保険1 10. 介護保険2・高齢者福祉 11. 障害者福祉 12. 地域福祉を支える人たちと地域福祉 13. 社会福祉の援助と方法 14. 栄養士と社会福祉1 15. 栄養士と社会福祉2	松谷恵子	2

専門科目単位数 102

臨床検査学科

【専任教員】

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
血液検査学Ⅰ 1年前期	血液は全身を循環し、生命維持に極めて重要な役割を果たしている。この講義では細胞成分(白血球・赤血球・血小板)と凝固線溶に関する基本的知識について学習する。 1. 血液の基礎 2. 赤血球 3. ヘモグロビン 4. 鉄代謝 5. 白血球 6. 顆粒球 7. 単球・リンパ球 8. 血小板Ⅰ 9. 血小板Ⅱ 10. 止血機構 11. 血液凝固Ⅰ 12. 血液凝固Ⅱ 13. 線溶系 14. 凝固・線溶の検査法と分子マーカー 15. 検体の採取と保存	三島清司	2
血液検査学Ⅱ 1年後期	血液検査は、日常診療において汎用される最も基本的で重要な検査の一つである。これは血液が全身を循環し病気に対する身体の反応を鋭敏に反映する為である。この講義では細胞成分(白血球・赤血球・血小板)と凝固線溶の異常を呈する疾患と検査法、異常値の捉え方(量的・質的)について学習する。 1. 赤血球系疾患Ⅰ 2. 赤血球系疾患Ⅱ 3. 白血球系疾患Ⅰ 4. 白血球系疾患Ⅱ 5. 造血器腫瘍Ⅰ 6. 造血器腫瘍Ⅱ 7. 造血器腫瘍Ⅲ 8. 造血器腫瘍Ⅳ 9. 血小板の異常 10. 凝固・線溶の異常 11. 赤血球に関する検査 12. 白血球に関する検査 13. 造血器腫瘍に関する検査 14. 血小板に関する検査 15. 血栓・止血に関する検査	三島清司	2
血液検査学実習 1年後期	各種疾患の診断治療に欠かせない血液検査について、基本的手技を習得する。また、各検査の結果の評価、臨床的意義についても学習する。 1. 検体採取 2. 血球算定 3. 塗抹標本作製、普通染色 4. 特殊染色 5. 末梢血液像 6. 骨髄検査 7. 造血器腫瘍の検査 8. 血管・血小板の検査 9. 凝固・線溶検査 10. 溶血検査	三島清司	1
検査特論 1年前期・後期 2年前期・後期	広く医療に関する発表や、講演を聞くことによって、医療における臨床検査の役割を理解していくことができる。また、施設見学や実習を通して、自分が目指している臨床検査技師は、患者様の命に対する責任と義務があることを認識し、職業意識を強く持たなければならない。これらの意識を育てるための授業内容となっている。5は個々に選択して参加し、合計30時間以上になるようにする。 1. 病院見学実習 2. 解剖見学実習 3. 施設見学実習 4. グループ学修 5. 学会および研修会 6. その他	三島清司	1
医療安全管理学実習 1年前期	検査の品質保証において検体採取は重要である。正確で安全な検体採取に必要な基本的な手技を学ぶ。 1. 採血(注射器) 2. 採血(真空管採血) 3. 採血(真空管採血) 4. 採血(翼状針) 5. 鼻腔・咽頭からの検体採取Ⅰ 6. 鼻腔・咽頭からの検体採取Ⅱ 7. 皮膚・口腔からの検体採取Ⅰ 8. 皮膚・口腔からの検体採取Ⅱ	三島清司、松村直愛	1
臨床検査医学 2年前期	臨床検査は、疾患の診断・治療方針の決定・治療効果の判定等に必要不可欠な客観的情報を提供し、現代医療を支えている。講義では、臓器別および疾患別に選択される臨床検査について学び、代表的な疾患の病態と用いられる臨床検査の関連について考える。 1. 循環器疾患の検査 2. 呼吸器疾患の検査 3. 消化器疾患の検査 4. 循環・胆・膵系疾患 5. 感染症の検査 6. 血液疾患の検査 7. 内分泌疾患の検査1 8. 内分泌疾患の検査2 9. 腎・尿路疾患の検査 10. 神経・運動器疾患の検査、感覚器疾患の検査 11. アレルギー検査性疾患他の検査 12. 代謝・栄養異常の検査1 13. 代謝・栄養異常の検査2 14. 染色体遺伝子異常の検査他 15. 臨床診断学総論	三島清司	2

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
染色体・遺伝子検査学 2年前期	<p>遺伝子・染色体検査学は、臨床医学に欠かせない重要な臨床検査である。従来は、単一遺伝子病の診断と治療を対象にするものであったが、がん、糖尿病をはじめとした様々な疾患が遺伝的な制御を受けていることが明らかとなっている。本講義では、メンデルの法則から最新のヒトゲノム解析までを学習することで、臨床遺伝学・染色体学の全体像を理解する。</p> <p>1. 細胞の構造と機能 2. ゲノムの基礎Ⅰ 3. ゲノムの基礎Ⅱ 4. 染色体の基礎 5. 染色体の異常 6. 遺伝子検査法Ⅰ 7. 遺伝子検査法Ⅱ 8. 遺伝子検査法Ⅲ 9. 遺伝子関連検査と品質保証 10. 染色体検査法(分染法) 11. 染色体検査法(FISH法、品質保証) 12. 先天性染色体異常 13. 後天性染色体異常 14. 遺伝子診療における臨床検査 15. 遺伝学的検査と倫理</p>	三島清司	2
医療安全管理学 2年前期	<p>医療の進歩や専門化により、医療現場での臨床検査技師への期待は大きく、その責任も重くなっている。本講座では臨床検査技師の責任及び範囲を理解し、感染管理および医療安全と患者接遇に配慮して適切に検体採取ができる能力、合併症発生時の対処法、医療事故発生時の要因分析と対策について学ぶ。</p> <p>1. 患者と技師のかかわり 2. リスクマネジメントⅠ 3. リスクマネジメントⅡ 4. 感染対策 5. 採血Ⅰ 6. 採血Ⅱ 7. 鼻腔・咽頭等からの検体採取 8. 皮膚・口腔等からの検体採取</p>	三島清司、松村直愛	1
関係法規・臨床検査技師 3年後期	<p>「臨床検査技師等に関する法律」を中心に医療関係法規や保健・医療・公衆衛生・福祉に関する法律をとおして法の概念を学び、医療関係職種との連携を密にする。</p> <p>1. 法の概念 2. 衛生検査技師法の制定 3. 臨床検査技師等に関する法律Ⅰ 4. 臨床検査技師等に関する法律Ⅱ 5. 医療・保健・福祉Ⅰ 6. 医療・保健・福祉Ⅱ 7. 労働関係法規 8. 臨床検査と医療過誤</p>	三島清司	1
解剖学 1年前期	<p>医学の最も基礎的な分野の一つである“人体の正常な構造”を学ぶ。本講義では細胞・組織の基礎知識と、各臓器の基本的な肉眼像および顕微鏡像を理解することを目的とする。</p> <p>1. オリエンテーションと序論 2. 細胞と組織 3. 骨格系 4. 筋系 5. 脈管系とリンパ性器官Ⅰ 6. 脈管系とリンパ性器官Ⅱ 7. 呼吸器系 8. 消化器系1～消化管～ 9. 消化器系2～肝臓、胆嚢、膵臓～ 10. 泌尿器系 11. 生殖器官系 12. 神経系1～中枢神経～ 13. 神経系2～末梢神経～ 14. 内分泌系 15. 感覚器系</p>	尾田三世	2
病理検査学実習 2年前期	<p>病理組織学においては病理診断の困難な症例、組織成分の増殖した症例、ある物質の沈着した症例など種々多様な症例がみられる。これらの症例では日常染色に加えて特殊染色が必要である場合がある。この実習ではその日常染色標本と特殊染色標本の作製技術を習得する。</p> <p>1. 固定、切り出し、脱脂、脱灰 2. 包埋、薄切、凍結切片標本作製 3. 一般染色 4. 結合組織の染色1 5. 結合組織の染色2 6. 多糖類の染色 7. 腎糸球体の染色 8. アミロイドの染色 鉄検出の染色 9. 組織内病原体の染色 10. 神経組織の染色</p>	尾田三世	1
病理組織細胞検査学 2年後期	<p>病理学は、疾病の原因を解明し、その発症機序を解明する学問である。その場合、病変の根底となる細胞、組織の変化を検索することが必要である。病理検査学は、これらの細胞、組織を顕微鏡下で観察できるように細胞、組織の標本作製する学問であり、その標本作製に必要な固定、染色などの基本的技術あるいはそのメカニズムを学ぶことを目的としている。特に前期は組織を中心に学習する。</p> <p>1. 免疫組織化学染色、遺伝子の染色法 2. 電子顕微鏡標本作製法 3. 病理解剖 4. 病理学的検査業務の管理 5. 細胞学的検査法の意義と概要 6. 細胞および組織の基本構造腫瘍細胞の特徴 7. 検体採取方法、検体処理の方法 8. 固定法、染色法、遺伝子解析 9. 細胞診各論 婦人科領域 10. 細胞診各論 呼吸器領域 11. 細胞診各論 泌尿器領域 12. 細胞診各論 体腔液 13. 細胞診各論 穿刺細胞診 14. 細胞診各論 その他 15. まとめ</p>	尾田三世	2

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
病理組織細胞検査学実習 2年後期	近年診断に必須である免疫組織化学染色を習得する。さらに病理組織像を基礎知識として、各種検体の細胞診標本の作製法および各臓器の細胞学的所見を中心に良性細胞、異型細胞及び悪性細胞の鑑別点を習得することを目的とする。 1. 免疫染色実習1 2. 免疫染色実習2 3. 免疫染色標本の観察 4. 細胞診検体処理とパパニコロウ染色 5. 細胞診標本の特殊染色 6. 細胞診染色観察 7. 細胞診標本観察 8. 細胞診標本鏡検2 9. 細胞診標本鏡検3 10. 細胞診標本鏡検4	尾田三世	1
臨地実習 3年前期	2年間の学内教育の集大成として3年生で行うのが臨地実習である。近隣の総合病院や検査センターに分かれて現場の体験を積むことにより、検査の方法やシステムを理解する。また、患者様を中心とし他の医療職種との連携による効率的なチーム医療を学ぶ。実際の検査技術を磨くことはもとより、精度管理を学び使命感も養われることを期待する。人間的な成長とげることができ、社会での適応能力も培われるものと思われる。 1. 臨地実習① 2. 臨地実習② 3. 臨地実習③ 4. 臨地実習④ 5. 臨地実習⑤ 6. 臨地実習⑥ 7. 臨地実習⑦ 8. 臨地実習⑧ 9. 臨地実習⑨ 10. 臨地実習⑩ 11. 臨地実習⑪	尾田三世、小野寺利恵	7
免疫学 1年後期	自然界において、自己と非自己の識別は厳密におこなわれ、個々の遺伝的な特性が維持されている。異物から体を守るしくみを生体防御機構とよび、感染防御、移植片拒絶反応などの免疫システムがある。この免疫システムについて学び、種々の免疫性疾患の病態と検査法の理解に役立てる。 1. 免疫系の構成要素 2. 自然免疫 3. 獲得免疫1 4. 獲得免疫2 5. 獲得免疫3 6. 獲得免疫4 7. 補体系の役割 8. 能動免疫と受動免疫 自己寛容 9. 免疫性疾患1 10. 免疫性疾患2	小野寺利恵	1
免疫検査学 2年前期	病気の診断に必要な臨床検査には抗原抗体反応を用いたものが多い。抗原抗体反応の種類は多くあるが、それぞれの反応原理について学ぶ。また、各種疾患の診断に用いられる検査法について学び、それぞれの検査法の臨床的意義を理解する。 1. 免疫学的検査の原理 2. 沈降反応 3. 凝集反応 4. 溶解反応、中和反応 5. 非標識抗原抗体反応 6. 標識抗原抗体反応 7. 電気泳動法 8. 免疫学的検査の原理まとめ 感染症の検査1 10. 感染症の検査2 11. アレルギー検査、自己免疫疾患関連検査1 12. 自己免疫疾患関連検査2 13. 免疫不全症関連検査、腫瘍マーカー検査 14. 血清蛋白異常症関連検査 15. 免疫学的検査の実際まとめ	小野寺利恵	2
免疫検査学実習 2年前期	病気の診断に必要な臨床検査には抗原抗体反応を用いたものが多い。種々の方法による試験管内抗原抗体反応を実習することによって、各検査法の目的と反応原理および疾患の診断データとしての臨床的意義を理解する。 1. 採血、血清分離 2. 凝集反応 3. 溶解反応 4. 免疫電気泳動 5. 標識抗原抗体反応	小野寺利恵	1
輸血・移植検査学 2年後期	補充療法の1つである輸血、高度先進医療である臓器移植や骨髄移植について、これら治療法の意義を理解するとともに、必要な基礎知識と検査法について学ぶ。また、最新の再生医療についても紹介する。 1. ABO式血液型1 2. ABO式血液型2 3. Rh式血液型 4. その他の血液型 5. 赤血球抗体検査 6. 交差適合試験 7. 輸血副作用 8. 自己免疫性溶血性貧血 9. 輸血療法 10. 輸血用血液製剤の種類と特性 11. 自己血輸血 12. 新生児溶血性疾患 13. HLA 検査 14. 血小板・顆粒球抗原と臨床的意義 15. 移植	小野寺利恵	2
輸血・移植検査学実習 2年後期	輸血や移植関連検査は、高度先進医療には欠かせない重要な検査である。安全な輸血、成功率の高い移植のためには、高度な知識と技術が必要である。輸血、移植に必要な臨床検査の基本的術式を学ぶ。 1. ABO式血液型 2. ABO式血液型発表まとめ 3. Rh式血液型判定法 4. 抗A、抗B抗体価測定 5. 唾液中の血液型物質測定、直接クームス検査 6. 不規則抗体検査 7. 交差適合試験 8. 不規則抗体・交差適合試験発表まとめ 9. 白血球検査法1 10. 白血球検査法2	小野寺利恵	2

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
臨床検査学総合 3年後期	今まで学んだ専門科目について復習しながら、分野同士のつながりを理解し、総合的に考える思考力を身につける。また、国家試験問題レベルの知識を身につけて卒業できるように学修する。 (内容) 1. 臨床検査総論 2. 臨床検査医学 3. 臨床生理学 4. 臨床化学 5. 病理組織細胞学 6. 臨床血液学 7. 臨床微生物学 8. 臨床免疫学 9. 公衆衛生学 10. 医用工学概論 国家試験対策	小野寺利恵	6
生理機能検査学Ⅰ 1年後期	循環器系の解剖、メカニズムを習得した上で心電図について学習する。同様に肺の解剖、メカニズムを習得した上で、肺機能検査について学習する。心電図波形と肺機能の所見について学生同士が議論しながら学習する。 1. 生体検査について 2. 循環器 解剖生理 3. 心電図検査1 4. 心電図検査2 5. 心電図検査3 6. 心電図検査4 7. 心電図検査5 8. 心電図検査6 9. 心電図検査7 10. 心電図検査8 11. 呼吸器 解剖生理 12. 肺機能検査1 13. 肺機能検査2 14. 血液ガス 15. 呼吸器 まとめ	櫻井理世、溝渕亜矢	2
生理機能検査学Ⅱ 2年前期	消化器系の解剖、メカニズムを習得した上で腹部超音波検査について学習する。同様に脳・神経の解剖、メカニズムを習得した上で、脳波検査について学習する。腹部超音波検査と脳神経検査の検査所見について学生同士が議論しながら学習する。 1. 超音波原理 2. 腹部 解剖生理 3. 腹部超音波検査1 4. 腹部超音波検査2 5. 腹部超音波検査3 6. その他の領域の超音波検査 7. 神経 解剖生理 8. 針筋電図 9. 神経伝導検査 10. 脳神経 まとめ 11. 脳波検査1 12. 脳波検査2 13. 脳波検査3 14. 睡眠脳波・誘発電位 15. 眼科領域の検査	櫻井理世、溝渕亜矢	2
生理機能検査学Ⅳ 2年後期	眼底検査・画像検査・感覚機能検査に関する原理や方法を理解し、それらの検査に関連する病態について学習する。 生理機能検査学Ⅰ～Ⅲで学習した内容の総括を実施する。 臨床を想定したデータを元にグループディスカッションと発表を行う。発表については学生同士がルーブリックを用いてお互いに評価する。 1. 磁気共鳴画像検査1 2. 磁気共鳴画像検査2 3. 磁気共鳴画像検査3 4. 聴力検査 5. 平衡機能 6. 味覚・嗅覚検査 7. 患者対応について 8. 循環器1 9. 循環器2 10. 呼吸器1 11. 呼吸器2 12. 脳神経1 13. 脳神経2 14. 画像検査1 15. 画像検査2	櫻井理世、溝渕亜矢、平松伸夫、有木雅彦	2
生理機能検査学実習Ⅰ 2年前期	生体検査の特性を理解した上で、機器に慣れ、信頼できるデータを提供し、緊急時の対処法を指導する。腹部超音波検査では各臓器を描出し主要な病態、心電図実習では1 2誘導心電図、R-R心電図、負荷心電図の実習、肺機能検査では声掛けや感染対策についても実施する。また、検査時における患者対応、接遇についても学ぶ。(2グループに分かれてローテーションで実習を実施する) 1. 心電図1 2. 心電図2 3. 負荷心電図 4. 血管検査 5. 味覚 嗅覚検査 その他 6. 呼吸機能検査1 7. 呼吸機能検査2 8. 呼吸機能検査3 9. 呼吸機能検査4 10. 呼吸機能検査5 その他 11. 腹部超音波 腹部1 12. 腹部超音波 腹部2 13. 腹部超音波 腹部3 14. 腹部超音波 腹部4 15. 超音波検査 その他	櫻井理世、溝渕亜矢、松村直愛	2
生理機能検査学実習Ⅱ 2年後期	生体検査の特性を理解した上で、機器に慣れ、信頼できるデータを提供し、緊急時の対処法を指導する。心臓超音波検査では基本断面を描出し主要な計測法を習得する。脳神経能検査では電気生理機器の装着法、メンテナンス方法を習得する。 また、検査時における患者対応、接遇についても学ぶ。(2グループに分かれてローテーションで実習を実施する) 1. 脳波検査1 2. 脳波検査2 3. 脳波検査3 4. 神経伝導検査 5. 誘発電位 6. 超音波検査 頸動脈 7. 超音波検査 心臓 8. 超音波検査 心臓 9. 超音波検査 心臓 10. 超音波検査 心臓	櫻井理世、溝渕亜矢、松村直愛	1

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
検査管理総論 3年前期	臨床検査技師として臨床検査の意義を理解することは勿論のこと、目覚ましい検査方法の変化や検査部門の運営方法も多岐に亘っている。このような医療環境において検査法の概要、システム等の概要、更には測定データを取り扱う上で、精度管理方法や評価方法について学ぶ。また、感染防止対策や安全衛生管理等への配慮も大切であることを学ぶ。 1. 医療と情報の関わり 2. 病院業務への情報ネットワーク技術の活用 3. 病院業務への情報ネットワーク技術の活用 4. 病院業務への情報ネットワーク技術の活用 5. 地域医療連携への情報ネットワークの活用 6. 医療安全と情報ネットワーク技術の関係 7. 医療における個人情報取り扱いの考え方 8. 医療における個人情報取り扱いの考え方 9. 臨床検査の意義 10. 検査部門の管理と運営 11. 精度管理Ⅰ 12. 精度管理Ⅱ 13. 精度管理Ⅲ 14. 基準範囲と臨床判断基準 15. 検査情報の活用	櫻井理世	2
病理学 1年後期	病理学とは疾患を解剖学的な形の変化から解析する学問であり、疾患の診断のみならず、発生機序の理解や治療に役立つことを目的としている。広範囲にわたる病理学的知識の効率的な修得のみならず、その後に学習する検査医学全般の理解の助けとなるよう講義を進める。 1. 病理学の意義、染色体・遺伝子・発生の異常 2. 組織細胞障害とその修復機構 3. 物質代謝異常 4. 循環障害 5. 炎症 6. 免疫異常 7. 腫瘍 8. 循環器系 9. 呼吸器系 10. 消化器系 11. 内分泌系 12. 泌尿器系・生殖器系 13. 乳腺・造血臓器系 14. 神経系・運動器系 15. 感覚器系、皮膚系、膠原病	椋清美	2
公衆衛生学 1年前期	公衆衛生とは、組織化された地域社会の努力により、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進を図る科学であり、技術である。環境とのかかわりの中で人の生から死に至るあらゆる過程が含まれ医学はもとより統計学、疫学、微生物学、免疫学、各種保健等広範な知識を洞察する学問である。これら複雑で膨大な情報の中から国民に正しい健康情報を提供できる専門職としての臨床検査技師を目指す。 1. 公衆衛生学概論 2. 衛生統計 3. 疫学1 4. 疫学2 5. 感染症1 6. 感染症2 7. 母子保健・学校保健 8. 成人保健1 9. 成人保健2 10. 生活環境 11. 公害 12. 栄養と食品衛生 13. 産業保健 14. 衛生行政・衛生法規・社会保障 15. 国際保健	椋清美	2
公衆衛生学実習 1年前期	公衆衛生学実習では温度・大気・水質などの環境測定や文献検索から得られた結果を元に、公衆衛生的な背景に論及し考察するスキルを身につける。分析疫学では、過去の事例を元に疾病の発生、経過、分布、原因について理解し疾病予防対策について議論する。 1. 感染症の予防 2. 環境測定1 3. 環境測定2 4. 環境測定3 5. 環境測定4 6. 環境測定5 7. 分析疫学1 8. 分析疫学2	椋清美	1
医動物学 1年前期	人体寄生虫症は、特に熱帯から亜熱帯地域に広範囲に蔓延し、重要な社会問題となっている。日本では激減したとは言え、最近、国際交流の拡大により輸入寄生虫症の持ち込み、生食嗜好の変化、ペットブームによる人畜感染症の誘発によって増加の傾向がある。このように寄生虫病の様相が変化する現在、検査技師としての寄生虫の分布、形態及び生態などの知識を習得すると共に、適切な寄生虫症の診断を把握する。 1. 医動物学総論 2. 線虫類各論1 3. 線虫類各論2 4. 吸虫類各論 5. 条虫類各論 6. 原虫類各論1 7. 原虫類各論2、衛生動物各論 8. 寄生虫検査法	椋清美	1
病理検査学 2年前期	病理学は、疾病の原因を解明し、その発症機序を解明する学問である。その場合、病変の根底となる細胞、組織の変化を検索することが必要である。 病理検査学は、これらの細胞、組織を顕微鏡下で観察できるように細胞、組織の標本作製する学問であり、その標本作製に必要な固定、染色などの基本的技術やそれらの原理を学ぶことを目的としている。前期は、病理組織検査を中心に学修する。 1. 病理学的検査の意義と概要 2. 病理組織標本作製の手順 3. 固定法 4. 切り出し、脱脂法、脱灰法 5. 包埋法、薄切法 6. 一般染色1 7. 一般染色2 8. 特殊染色1 9. 特殊染色2 10. 特殊染色3 11. 特殊染色4 12. 特殊染色5 13. 特殊染色6 14. 凍結切片標本作製法 15. 臨床における病理検査の実際	椋清美	2

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
生化学検査学 I 2年前期	<p>体液中に存在する各種の化学物質の代謝や異常が起こるメカニズムを学び、併せて各種の検査結果がどの様に結びつき、また各臓器機能と病態との関連を学ぶとともに、その測定原理を学ぶ。</p> <p>1. 測定値の変動 2. 糖 3. 電解質1 4. 電解質2 5. 電解質3 6. 蛋白質 7. 骨代謝・ビタミン 8. 非蛋白性窒素化合物 9. 非蛋白性窒素化合物 10. 放射性同位元素</p>	岡村美和	1
生化学検査学 II 2年後期	<p>前期に引き続き、存在する各種の化学物質の代謝や異常が起こるメカニズムを学び、併せてその測定法を理解する。また検査結果からその臓器機能評価と病態を理解する。</p> <p>1. 脂質代謝1 2. 脂質代謝2 3. 脂質代謝3 4. 酵素1 5. 酵素2 6. 酵素3 7. ホルモン1 8. ホルモン2 9. ホルモン3 10. 肝・胆道系疾患検査 11. 呼吸器・循環器検査 12. 腎疾患・酸塩基平衡検査 13. 内分泌検査 14. 栄養代謝、骨、炎症検査 まとめ 15. 血中薬物濃度</p>	岡村美和	2
生化学検査学実習 I 2年前期	<p>生化学検査学で学習した分析法を実際に体験することを目的とする。臨床化学検査法の基礎を学び、各種秤量器具の正しい使い方、薬品の保管、秤量、調整等を行い、測定法の留意する点を考慮しながら分析し、測定結果の信頼性を確認する。検査結果から異常値のメカニズムや病態を考える。</p> <p>1. 準備 2. 基礎実習1 3. 基礎実習2 4. 基礎実習3 5. 準備 6. 糖質検査 7. 総蛋白測定 8. 蛋白分画</p>	岡村美和	1
生化学検査学実習 II 2年後期	<p>生化学検査学で学習した分析法を実際に体験することを目的とする。臨床化学検査法の基礎を学び、各種秤量器具の正しい使い方、薬品の保管、秤量、調整等を行い、測定法の留意する点を考慮しながら分析し、測定結果の信頼性を確認する。検査結果から異常値のメカニズムや病態を考える。</p> <p>1. 準備説明 2. 非蛋白性窒素化合物測定1 3. 非蛋白性窒素化合物測定2 4. Km、Vmaxについて 5. Km、Vmaxについて 6. 酵素活性値の測定 7. LDアイソザイム</p>	岡村美和	1
染色体・遺伝子検査学実習 2年後期	<p>現在、病院検査室では、抗酸菌、クラミジア、HBV、HCV、HIV などの感染症や、移植におけるHLA タイピング、キメラリズムの検査を遺伝子の技術を用いて検出する時代となった。また、白血病の検査では染色体・遺伝子異常の検出が主になっている。将来医療の多くの分野でさらに発展していく分野であり、DNAの抽出、電気泳動によるDNA確認法、PCRなどの遺伝子操作の基本的技術の習得を目的とする。</p> <p>1. 実習の説明 2. 染色体検査1 3. 染色体検査2 4. 遺伝子検査1 5. 遺伝子検査2 6. 遺伝子検査3</p>	岡村美和、小野寺利恵	1
検査機器総論 3年前期	<p>臨床検査は各種の分析法や分析機器の進歩によって支えられている。本講義では検査情報の元となる臨床検査で使用される各種機器の原理と構造および正しい使用方法などを学習する。</p> <p>1. 検査機器総説、容量器、秤量器 2. 血液検査機器、顕微鏡装置 3. 化学検査機器、測光装置 4. 病理検査機器、攪拌装置、保冷装置 5. 微生物検査機器 恒温装置、滅菌装置 6. 免疫血清検査機器、遺伝子検査装置 7. 生理検査機器 8. POCT、電気化学装置</p>	岡村美和	1
検査特論 II 3年前期・後期	<p>医療の現場において技術的にも精神的にも信頼される臨床検査技師として社会に貢献するための職業意識を強くもたなければならない。臨地実習、就職活動、国家試験に向けて必要な心構え、常識を身に着け、臨床検査技師として社会に出る準備をする。※授業の構成は年度ごとに計画し実施する</p> <p>1. 特論1 2. 特論2 3. 特論3 4. 特論4 5. 特論5 6. 特論6 7. 特論7 8. 特論8</p>	岡村美和	1

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位数
生化学 1年後期	<p>生命活動を生体分子レベルで理解することを目的としており、タンパク質・糖質・脂質の構造、機能や代謝の仕組みなどを学ぶ。</p> <p>1. 生体分子 2. 生化学に必要な化学の基礎知識 3. 酵素 4. 糖質の分類・単糖類 5. オリゴ糖・多糖類 6. 代謝とエネルギー生産・解糖 7. TCAサイクル 8. 電子伝達系・酸化的リン酸化 9. 糖新生 10. 脂質：脂肪酸・リン脂質 11. 細胞膜の構造：脂質二重層 12. タンパク質の分類 13. アミノ酸 14. タンパク質の構造 15. タンパク質の性質</p>	松村直愛	2
一般検査学 1年前期	<p>まず、検査を行う上で必要な検体の取り扱いなど基本的なことを学修する。さらに、専門的検査の前のスクリーニング的な役割を果たす一般検査について、検査法、意義、疾患との関連を学修しその重要性を理解する。</p> <p>1. 尿の生成 2. 尿検査1 3. 尿検査2 4. 尿検査3 5. 尿検査4 6. 尿検査5 7. 尿検査6 8. 糞便検査 9. 髄液検査 10. 穿刺液検査他 11. 尿沈渣1 12. 尿沈渣2 13. 尿沈渣3 14. 尿沈渣4 15. 尿沈渣5</p>	松村直愛	2
一般検査学実習 1年後期	<p>臨床検査における一般検査とは、各専門分野の前に行う基礎的な検査として位置づけられており、手技が簡単で迅速にできる検査である。実習ではまず、検査の基礎となる検査器具の使用法、検体の取り扱いを学ぶ。さらに、尿、便、髄液などを用いた化学的検査、および形態学的検査の手法を習得し、スクリーニング検査としての一般検査の重要性を理解する。</p> <p>1. 一般検査1 2. 一般検査2 3. 一般検査3 4. 一般検査4 5. 尿沈渣1 6. 尿沈渣2 7. 尿沈渣3 8. 尿沈渣4 9. 寄生虫と虫卵の観察1 10. 寄生虫と虫卵の観察2</p>	松村直愛、椋清美	1
生理学 1年前期	<p>ヒトは、器官、組織、細胞がそれぞれ固有の機能を営みながらも、統率のとれた連携プレーで一つの個体としての生命活動を行っている。ヒトの体の正常な営みを学ぶために必要な生理学の基礎知識を学習する。</p> <p>1. 細胞 2. 神経総論 3. 脳と脊髄 4. 自律神経系 5. 体性神経 6. 特殊神経 7. 筋肉 8. 循環1 9. 循環2 10. 呼吸 11. 消化 12. 内分泌 13. 血液 14. 腎臓・体液 15. 生殖</p>	溝渕亜矢、尾田三世	2
生理機能検査学Ⅲ 2年後期	<p>血管および心臓の解剖、メカニズムを習得した上で血管検査、心音、超音波検査について学習する。 超音波検査は現行のガイドラインに基づいた計測方法、疾患の診断方法を学習する。</p> <p>1. 血管検査 2. 血管超音波検査 3. 循環器解剖生理 4. 心臓超音波検査1 5. 心臓超音波検査2 6. 心臓超音波検査3 7. 心音図 8. 循環器 まとめ</p>	溝渕亜矢	1

【非常勤講師】

授業科目の名称	授業概要	授業担当者	単位
臨床病態学Ⅱ 2年後期	<p>広く医療に関する講義を聴くことにより、医療における臨床検の役割を理解していくことができる。自分が目指している臨床検技師は患者様の命に対する責任と義務があることを認識し、職業意識を強く持たなければならない。臨床検査に関連した各分の専門家を招いて講演、実技指導をしていただく。</p> <p>1. 婦人科1 2. 婦人科2 3. 小児科1 4. 小児科2 5. HIV 6. HIV 7. 遺伝子検査学1 8. 遺伝子検査学2</p>	香月孝史、山崎尚也	1
情報科学実習 1年前期	<p>パーソナルコンピュータの基本ソフトの操作になれ、日常的に多く使用されているメールやブラウザ(インターネット)、業務遂行上必要な文章を作成するための文章作成ソフト、医療現場に必要な不可欠な数値処理するための表計算ソフト、研究発表のためのプレゼンテーションソフトなどの操作を習得する。</p> <p>1. MOS対策 基本操作 2. MOS対策 Word1 3. MOS対策 Word2 4. MOS対策 Word3 5. MOS対策 Word4 6. MOS対策 Ecel1 7. MOS対策 Ecel2 8. MOS対策 Ecel3 9. MOS対策 Ecel4 10. MOS対策 Ecel5 11. MOS対策 Ecel6 12. MOS対策 PowerPoint1 13. MOS対策 PowerPoint2 14. MOS対策 PowerPoint3 15. MOS対策 PowerPoint4</p>	高村武彦	1
医用工学実習 1年後期	<p>本実習では、医用工学を行う上で必要になってくる電気電子回路の基礎を、演習を踏まえて学習する。実際に医療機器やテスターを用いて各自で実験・実習を行うことにより、医療機器のメカニズムおよび測定の結果について考察・検討させ、医療機器等の使用方法を習得させることを目的とする。</p> <p>1. まとめ 2. 医用工学実習1 3. 医用工学実習2 4. 医用工学実習3 5. 医用工学実習4 6. 医用工学実習5 7. 医用工学実習6 8. まとめ 9. 医用工学実習7 10. 医用工学実習8 11. 医用工学実習9 12. 医用工学実習10 13. 医用工学実習11 14. 医用工学実習12 15. まとめ</p>	前田康治、渡邊琢朗	1
保健医療福祉概論 1年前期	<p>少子高齢化に伴い、医療to福祉が重視されてきている。医療は疾病の中心であるが、福祉はいかに健康を維持・管理するか、社会・国家的レベルの社会保障制度、医療法、医療提供体制としての医療施設の種類など、新しい見方が必要になってきた。そのために先ず、福祉の発展の歴史と定義、医の倫理、患者の心理など医療人が理解しておかなければならない基礎知識を、社会保障制度などの諸制度に加える。</p> <p>1. 保健医療福祉1 2. 保健医療福祉2 3. 保健医療福祉3 4. 保健医療福祉4 5. 保健医療福祉5 6. 保健医療福祉6 7. 保健医療福祉7 8. 保健医療福祉8</p>	森田益子	1

専門科目単位数

79